

平成28年度



# 宮崎大学 概要

世界を視野に  
地域から始めよう



# CONTENTS

平成28年度 宮崎大学概要

- 1 学長挨拶  
目次
- 3 宮崎大学について
- 5 学長戦略企画室  
清花アテナ男女共同参画推進室
- 6 テニユアトラック推進機構  
みやだいCOC推進機構
- 7 宮崎大学の教育
- 9 宮崎大学の研究



旧宮崎大学と宮崎医科大学とは平成15年10月に統合し、平成16年4月には国立大学法人宮崎大学となりました。「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンの下に現在も歩み続けています。平成28年4月からは、地域資源創成学部を新たに加え、教育学部、医学部、工学部ならびに農学部を5学部を持つ大学として機能しています。

本学では『異分野融合を軸に「地の利、人の利」を活かした教育研究等の推進』ならびに『地域と共に興す「新たに光る宮崎ブランド」の確立と発信』を目標として、時代の変化に対応できる人材の育成に努めています。

本学は、統合、法人化のメリットを活かした特色ある大学改革に積極的に取り組んできました。平成19年には農学と工学が融合した全国初の農学工学総合研究科博士後期課程を設置しました。宮崎県の基幹産業である農林畜産水産業の振興はもとより、太陽光・太陽熱エネルギーシステムの教育や研究の拠点を形成して、工業振興にも組織的に取り組んでいます。

平成20年には教育現場での指導的教員を養成するために、教職大学院（教育学研究科教職実践開発専攻）を設置しました。

平成22年4月には医学および獣医学という関連する学問的背景に加えて、宮崎県が日本でも有数の畜産県であることから、医学と獣医学が融合した、全国唯一の医学獣医学総合研究科博士課程を設置しました。平成22年4月に宮崎県で発生し、大きな被害をもたらした口蹄疫の教訓を踏まえ、平成23年10月に宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターを設置しました。家畜感染症に対する国際的な防疫の教育や研究が行われており、全国の拠点となるべく活動を続けています。さらに、本センターの基盤となる産業動物教育研究センターでは、全国的にも類を見ない大・中動物実験施設を備え最新の研究機器を整備しています。

平成26年4月から、農学部新学科体制に対応した農学研究科修士課程の改組を行い、新たに農学国際コースを開設しました。さらに、医科学看護学研究科修士課程を改組し、医学獣医学総合研究科に医科学獣医科学専攻修士課程を新たに立ち上げました。

獣医科学系の修士課程は、我が国では初めてとなります。新設の看護学研究科では、実践看護者育成コースにおいて助産師育成も行っています。

また、平成25年に文部科学省から九州畜産地域における産業



## 学部・別科

11 教育学部  
医学部  
工学部

12 農学部  
地域資源創成学部  
別科

## 大学院

13 教育学研究科  
看護学研究科  
工学研究科

14 農学研究科  
医学獣医学総合研究科  
農学工学総合研究科

15 医学部附属病院  
附属図書館

16 情報基盤センター  
安全衛生保健センター  
障がい学生支援室

17 学内共同教育研究施設

19 国際交流

21 地域貢献（地域連携・産学官連携）

23 創立330記念交流会館  
農学部附属農業博物館

24 キャンパスマップ 木花

25 キャンパスマップ 清武  
アクセス

26 資料編



# 世界を視野に 地域から始めよう

動物教育拠点に認定された本学農学部の住吉フィールドには新たに養豚教育施設が完成しました。全国的にも類を見ない施設であり、地域産業振興へのさらなる活用が期待されます。

医学部附属病院は宮崎県唯一の特定機能病院として宮崎県民の医療・福祉の向上に取り組んで参りましたが、国の地域医療再整備計画の一環として、平成24年4月には待望の救命救急センターが開設され、ドクターヘリも導入されて、順調に稼働しています。名実共に最先端医療を担う、地域の中核医療拠点としての役割を果たしています。また、平成27年4月からは宮崎市立田野病院の指定管理者として国立大学法人としては全国で初めての管理運営を担うこととなりました。地域医療を見据えた総合診療の教育を中心に医療従事者の育成に積極的に取り組んでいます。

本学は生命科学、環境科学、エネルギー科学、食の科学の分野において、国際的に通用する特色ある高度な学術研究を世界へ発信しています。平成25年度から文部科学省「地（知）の拠点（COC：Center of Community）整備事業～食

と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成」を推進し、平成27年度には県内の大学等とも連携して更に拡充した「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」にも採択されました。

本学は地域社会に根差し、地球規模で自らをみつめてグローバルに動くことのできる人材を育成して社会に輩出し、輝き続ける大学でありたいと考えて、日々取り組んでいます。



宮崎大学長  
池ノ上 克

## 本学の理念・目的

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育ててきた地球環境の保全のための科学を志向する。

## シンボルマークについて



宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

また、緑（グリーン）と青（ブルー）の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

## 宮崎大学オリジナルキャラクター



みやだいまうくん

平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいまうくん」です。本学の英語表記である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou（もう）」、この音が牛の鳴き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。

## 大学のスローガン

「世界を視野に 地域から始めよう」

## 宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川逸子 作曲：斉藤武 補作：菅邦男

## 宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川 逸子  
作曲：斉藤 武  
補作：菅 邦男

- 一 空高く 神々の里 　　<sup>ひむか</sup>ここ日向  
青島望むこの台地 　　<sup>まなびや</sup>緑茂れる 　　<sup>学舎</sup>で  
先人の輝く轍 　　<sup>わだち</sup>踏みしめて  
未来に架ける若人の 　　<sup>みちしるべ</sup>夢と希望の道標  
宮崎大学
- 二 <sup>ひゅうがなだ</sup>日向灘 <sup>はま</sup>浜木綿の顔色 暖かく  
<sup>きら</sup>煌めく白い波のごと <sup>こはな</sup>心優しく清らかに  
<sup>このはな</sup>木花の風土が <sup>はくく</sup>育む命愛し  
真理を求め学びゆく 夢と希望の道標  
宮崎大学
- 三 <sup>やまなみ</sup>山脈の美し姿 <sup>おびすぎ</sup>　　飢肥杉の  
<sup>てんくう</sup>天空さして在のごとく 理想を高く意志強く  
時を翔け自由を旅する 鳥のように  
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標  
宮崎大学

1. そ ら う た か な く の か ほ う み が の み か し の お す さ い が  
2. ひ ゃ う ま た が な な み の ま つ の く か し  
3. や

1 どろ た こあお こたび ひたす むかぎ かくの あきて おらん しめく まくう のしき ぞろし むいて

8 こな の だ い ご とく み こり りろ う しやを げさた れしか るく まきい なよし ーびら ーや ー  
こな の だ い ご とく み こり りろ う しやを げさた れしか るく まきい なよし ーびら ーや ー

12 て に く せん の じん の の か ふ が や が く わく だ ち ふ の み ち の し あ め  
こ の とき はな をか の け けい じ ゅう を た び す る の どり の の

16 て し に f み し せ いらい にを に かち れど る わ こな どの の ゆめ と き ほう  
こ の とき はな をか の け けい じ ゅう を た び す る の どり の の

20 の みち し る ー べ ff み や ざ き だ い が く



# 年間スケジュール

※変更となる場合もあります。

4月	学年学期始・前学期開始 入学式
8月	夏季休業（9月末まで）
9月	前学期終了
10月	後学期開始

11月	大学祭
12月	冬季休業
3月	卒業式・修了式 春季休業 学年学期終・後学期終了

# 沿革

宮崎県尋常師範学校  
明治17年11月17日設立  
明治18年2月28日開校

宮崎県師範学校  
明治31年4月1日改称

宮崎県女子師範学校  
大正15年4月1日分離独立

宮崎師範学校(官立)  
昭和18年4月1日統合改称

宮崎県実業補習学校教員養成所  
大正11年3月10日設立  
大正11年4月20日開校

宮崎県青年学校教員養成所  
昭和10年4月1日改称

宮崎青年師範学校(官立)  
昭和19年4月1日改称

宮崎高等農林学校  
大正13年9月25日設立  
大正14年4月9日開校

宮崎農林専門学校  
昭和19年4月1日改称

宮崎県高等工業学校  
昭和19年2月26日設立  
昭和19年5月5日開校

宮崎工業専門学校  
昭和19年8月29日改称

教育文化学部

工学部

農学部

宮崎大学  
昭和24年5月31日設置

国立医科大学(宮崎県)創設準備室  
昭和48年10月1日設置

宮崎医科大学  
昭和49年6月7日設置

宮崎大学  
平成15年10月1日統合

国立大学法人宮崎大学  
(平成16年4月1日設置)

- 教育学部**
  - 学校教育課程
  - 附属教育協働開発センター
  - 附属幼稚園
  - 附属小学校
  - 附属中学校
- 医学部**
  - 医学科
  - 看護学科
  - 附属病院
- 工学部**
  - 環境応用化学科
  - 社会環境システム工学科
  - 環境口ホエアイクス学科
  - 機械設計システム工学科
  - 電子物理工学科
  - 電気システム工学科
  - 情報システム工学科
- 農学部**
  - 植物生産環境科学科
  - 森林緑地環境科学科
  - 応用生物科学科
  - 海洋生物環境科学科
  - 畜産地科学科
  - 獣医学科
  - 附属フイールド科学教育研究センター
  - 附属農薬博物館
- 地域資源創成学部**
  - 地域資源創成学科
- 大学院**
  - 教育学研究科(修士・専門職学位)
  - 看護学研究科(修士)
  - 工学研究科(修士)
  - 農学研究科(修士)
  - 医学獣医学総合研究科(修士・博士)
  - 農学工学総合研究科(博士(後期))
- 別科**
  - 畜産別科
- 附属図書館**
- 学内共同教育研究施設**
  - 産学・地域連携センター
  - 教育・学生支援センター
  - フロンティア科学実験総合センター
  - 国際連携センター
  - 産業動物防疫リサーチセンター
  - 語学教育センター
  - IR推進センター
- 安全衛生保健センター**
- 情報統括機構**
  - 情報基盤センター
- 障がい学生支援室**

## 学長戦略企画室



「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして掲げる本学には、グローバル社会と多様な課題を抱えている地域社会の双方を視野に入れ、「地の利」と「人の利」を活かしながら、教育研究の機能や水準を最大限に高めていくことがつねに求められています。

このような要請のなか、スピード感をもって本学の管理運営を図っていくために、学長の指示の下、学内外の諸情報を収集・活用することによって、総合的かつ多様な視点から本学の教育研究機能等の問題点を分析し、大学の機能強化に関わる企画を立案するとともに、IR推進センター（Center for the Promotion of Institutional Research）と連携して、管理運営に関わる構造化データを分析し、学長のガバナンスを支援することが本企画室の任務です。

学長戦略企画室は、大学におけるガバナンス改革の一環として、学長の意思決定をサポートしていくための体制強化を目的に、平成26年4月1日に設置され、現在は機能強化推進担当副学長を室長に、副室長、室員で構成されています。

## 清花アテナ男女共同参画推進室

理事（女性活躍・人材育成担当）・副学長を室長とする清花アテナ男女共同参画推進室では、本学に在籍する教職員や学生の個性や能力の発揮を支援するための取り組みを行っています。具体的には、育児・介護に関する相談への対応、「宮崎大学きつぷサマースクール」開催や「Athenaリサーチアシスタント制度」運用、女性研究者の裾野拡大を目的とした「女子高校生のためのサイエンス体験講座」など、その内容は多岐に渡っています。

平成24年に策定した「男女共同参画基本計画」（平成24～28年度）では、教員における女性の割合や、役員等管理的立場にある女性教職員の数などに目標値を設定し、各部局の協力も得ながら多様性が生きる大学の実現を目指しています。

こうした取り組みが評価され、平成25年には厚生労働省認定「子育てサポート企業」としてくるみんマーク（右図）を取得しました。平成28年3月には、管理的立場にある教職員が「宮崎大学イクボス宣言」を行うなど、働きやすく学びやすい大学となるような取り組みを積極的に進めています。



## テニュアトラック推進機構

【宮崎大学テニュアトラック推進機構 公開セミナー】  
TT Week 2016 研究成果発表会

学部1・2年生 必聴!!

『研究』ってなんだろう??  
大学に入ったけど、イマイチ「研究」のイメージがわからない...  
そんなあなたに、11名の若手研究者が最新の研究事例を紹介!!



開催日：5月31日(火) 5-6時限目&7-8時限目  
開催場所：5-6時限目 教育学部講義棟L207  
7-8時限目 教育学部講義棟L107

入退室自由!

【プログラム】

第一部 (13:00~14:30)：化学と社会の繋がり 教育学部講義棟L207  
水光正仁 理事・副学長：テニュアトラック推進機構の実態体制の説明  
① 稲葉 謙子：体温調節ができる動物の種を創る? 植物の発熱分子機構に関する研究  
② 安田 仁泰：サンゴ礁生物の種分化をさぐる  
③ 奥山 善治：水素が動くセラミックスと水素エネルギー社会に向けた取り組み  
④ 小山 大介：世界経済を知るー経済のグローバル化と身近になる世界ー  
⑤ 平山 浩之：隙が方程式が「解ける」とは

第二部 (14:50~16:20)：医学・獣医学と社会の繋がり 教育学部講義棟L107  
水光正仁 理事・副学長：テニュアトラック推進機構の実態体制の説明  
⑥ 本多 新：iPS細胞から新しい生物「キメラ」を創る  
⑦ 和田 啓：タンパク質の「かたち」から薬をデザインする  
⑧ 佐々木 篤介：ビッグデータが世界を変える! 疫学による疾病制御の手法  
⑨ 吉水 隆紀：社交不安症(対人恐怖症)の病態メカニズムと精神療法を科学する  
⑩ 白壁 博久：どうしたら減るのか? 推し続けるウシのガンウイルスを克服する  
※山手 剛：患者別計算モデルに基づく主体化学的イメージング(ポスター発表)

※ポスター展示 日時：5月24日(火)~5月31日(火)  
場所：図書館1Fホール(上記発表内容の概要説明)

テニュアトラック(TT)制とは、公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、一定(通常5年)の任期内に研究主宰者(PI, principal investigator)として研鑽を積んだ後、厳正な審査を経てテニュア教員(任期の定めがない雇用資格)として採用されるキャリアパスシステムのことです。

宮崎大学は、各学部の重点的教育研究分野における教員を育成する目的で平成23年度にテニュアトラック推進機構(TT推進機構)を設置しました。これは、平成21年度に異分野融合研究領域における若手研究リーダーを育成するために発足したIR推進機構(Interdisciplinary Research Organization)の事業をさらに発展させたものです。平成26年度にTT制は全学部へ普及し、平成28年4月現在、11名のTT教員がTT推進機構に所属しています。

大学のTT事業は文部科学省から高く評価され、中規模地方総合大学におけるTT制のロールモデルとなっています。

## みやだいCOC推進機構

本学は、平成25年度から「地(知)の拠点整備事業(COC\*)」の採択を受け、学長のリーダーシップの下、「地域のための大学」として全学が一丸となり教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。とりわけ教育分野においては、「地域活性化・学生マイスター」と呼ばれる資格を取得できる地域志向型一貫教育カリキュラムを整備しています。カリキュラムには初級と上級の2つのコースがあります。初級では地域理解のための社会調査法を主に学び、上級では問題解決型学修(PBL)形式で実際の地域課題に臨みます。学生が宮崎県内を学びの場とし、そこに住む方々と共に地域課題について考えることで、地域のリーダーとなる資質を育成します。

また平成27年度には、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」にも採択されました。COC+では、宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、九州保健福祉大学、都城工業高等専門学校と連携し、さらに、宮崎県、市町村、地元企業等とも協働しながら、地域が求める産業人材を育成します。

※COCとは：Center Of Communityの略称。さまざまな人材や情報・技術が集まる大学を地域コミュニティの活性化に取り組む中核的な存在として、その機能の強化整備を行う文部科学省の事業のことです。



大学について



大学の教育

大学の研究

学部

別科

大学院

附属施設

学内組織

教育研究施設  
学内共同

国際交流

地域貢献

創立330周年記念  
農業博物館

キャンパスマップ  
アクセス

資料編



## 宮崎大学の教育の特色

### 地域で育てるグローバルな人材

「世界を視野に地域から始めよう」のスローガンのもと、宮崎大学では、地域をフィールドにして培った課題解決力と実践的な語学力をそなえ、グローバルな視野で主体的に活躍できる人材を育てようとしています。

平成26年度からは、このような人材を育成するために、新しい学士課程教育方針に基づいて、基礎（教養）教育と専門教育とが連続して展開されるように、しかも、グローバルな視野で活躍するために欠かせない課題解決能力と外国語によるコミュニケーション能力の修得ができるように、学士課程一貫の教育課程を構築しました。専門教育は、基礎教育と並行しながら学年進行に伴って基礎知識の修得に始まり応用・発展へと進んでいきます。本学の専門教育の特色は、地域をフィールドにして（地域的な特性を活用して）、実践的かつ高度な専門性を育てようとしている点にあります。

また、広い視野のなかで自ら考え、行動できる人材を育てるために重要な役割を果たす基礎教育では、アクティブ・ラーニング(能動的な学習)を重視した教育を実施するとともに、高度化し続ける情報処理能力や技能の修得に向けて、必携化されたパソコンを使って情報・数量スキル形成に対応する教育を実施しています。

さらに、地域の活性化や地域課題の解決に貢献できる人材を育成するための、COC事業(「文部科学省地(知)の拠点整備事業」)による地域志向型一貫教育カリキュラムも展開されています。平成28年度からは、地域の活性化とイノベーションの創出をめざして、地域資源の価値を複眼的に捉える視野をもった人材を養成する地域資源創成学部の教育も始動しました。

### 異分野融合による教育

本学の教育の特色のひとつは、異なった分野の知識・視点・方法等を融合させることによって、新たな教育を展開している点に求められます。その特色はとりわけ大学院教育に顕著に表れています。修士課程では、研究科ごとに特徴ある高度専門職業人の養成をめざした教育プログラム

が用意されています。博士課程においては、農学と工学が融合した農学工学総合研究科(博士後期課程)が、医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科(平成26年度からは修士課程を併設)が、それぞれ全国に先駆けて創設されました。教職大学院(教職実践開発専攻)では、各教科等の領域が融合したカリキュラムが編成されています。このように、旧来の縦割りの学問分野による教育ではなく、これまで領域を異にしていた分野を新たに融合させることによって、相互の研究や教育の質を向上させ、なおかつ、これまで手の届きにくかった融合領域に関して新たな研究成果や教育効果をもたらしています。異分野融合による教育・研究の成果は各学部の専門教育にも着実に活かされ、グローバルな人材を地域で育てるといふ本学のスローガンを実質的に支えています。本年度新設された地域資源創成学部においては、マネジメントに関する専門知識と、社会・人文科学、及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識によって編成された異分野融合のカリキュラムが構築され、そこでは単に地域を教育研究のフィールドとするだけでなく、地域の人々との協働教育や全県規模でのインターンシップ教育も計画されています。

### 自立性を育てる学習環境の整備

サークル活動やボランティア活動、海外研修・留学など、正規のカリキュラム以外での活動を通してさまざまな資質・能力を磨くことや、自己と社会との関わりについて考えを深めることも大学教育の重要なねらいのひとつです。本学では、学生自身が企画・運営し大学や地域社会を活性化していく素養を身につけることを目的として、「とって元気!宮大チャレンジ・プログラム」といふ本学独自の事業を継続しており、これまでも多くの成果を生み出してきました。また、ラーニングコモンズ等を利用した学生たち自身による自主的・自発的な学習活動も増えています。このように、本学では、自ら考え、行動できる自立した人材を育成するために、自由に学ぶという理念に支えられた「学びやすい環境」を準備できるように取り組んでいます。





## 教育方針（教育理念、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）

### 教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

- 1. 人間性の教育**
  - ・高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。
  - ・生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。
- 2. 社会性・国際性の教育**
  - ・社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する。
  - ・柔軟で論理的な思考力を育成するとともに、日本語による記述・発表の能力や外国語によるコミュニケーション能力を育成する。
- 3. 専門性の教育**
  - ・それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求及び解決能力、自発的に学習する能力を育成する。
  - ・新たな知の創造につながる専門教育を実施し、総合的判断力を育成する。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

宮崎大学では、その教育理念に基づき、幅広く深い教養と専門性を修得し、豊かな人間性と高い倫理性を身に付けた人材を養成するため、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部を置き、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- 【教育課程編成の方針】**
1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）と学士力発展科目を設置する。
  2. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科・課程専門科目を設置する。
  3. 専攻分野を超えて学際的な視点を養う科目を設置する。
  4. 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。

- 【実施の方針】**
1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
  2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
  3. 成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
  4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

### アドミッション・ポリシー（入学者受入・選抜の方針）

宮崎大学では、求める学生像に示す意欲と能力を持った人を国内外から積極的に受け入れます。

- 【求める学生像】**
1. 本学の教育理念に共感し、明確な目的意識を持ち自ら考え行動できる学習意欲の高い人
  2. 本学の学修に充分対応できる基礎学力や基礎技能を有する人
  3. 専門知識をもって地域や国際社会で活躍したいと考えている人
- 【入学者選抜の基本方針】**
1. 求める学生像に沿って、多様な入試方法により多面的・総合的に選抜する。
  2. 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜する。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

宮崎大学では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士号）を授与します。

1. 基礎教育カリキュラムの履修を通して身に付ける、基本的な学習能力、人類の文化、社会、自然に対する理解、及び社会人としてふさわしい教養と人間性
2. 学科・課程・専攻における体系的学習と専攻分野を横断する学際的学習を通して身に付ける、社会の多様な課題を探索し解決する能力
3. 多様な授業形態や、卒業研究等を通して身に付ける知識、汎用的技能（コミュニケーション能力、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）、態度（自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任、倫理観、生涯学習力）、及び国際性

## 宮崎大学の教育プロジェクト（平成28年度現在）

研究課題名等	研究種目等	期間	学部等
<b>国立大学法人等の教育研究基盤の確保</b>			
九州畜産地域における産業動物教育拠点事業	文部科学省特別経費(教育関係共同実施分)	H28	農学部
九州における照葉樹林とスギ林業を生かした教育共同利用拠点事業	文部科学省特別経費(教育関係共同実施分)	H28	農学部
<b>国公私立大学を通じた大学教育改革の支援 ※1</b>			
地域の医療現場と協働したサービス・イノベーション人材の育成	大学間連携共同教育推進事業	H24~H28	医学部
高度医療人材養成機能の充実	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	H24~H28	医学部
食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	H25~H29	全学
大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材の育成	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	H27~H31	全学
<b>地域とともに興す「新たに光る宮崎ブランド」の確立と発信</b>			
海外大学間との共同連携教育による新たな留学生受け入れシステム :Credit Earning法によるグローバル人材育成学部教育プログラムの構築	機能強化経費—機能強化促進分	H28	農学部
<b>文部科学省以外の事業</b>			
地域医療総合診療医学講座	寄附講座[宮崎県]	H22~H28	医学部
<b>JABEE(ジャビー) ※2</b>			
工学部 土木環境工学科/社会環境システム工学科	土木および関連の工学分野/土木および土木関連分野	H15~	工学部
工学部 物質環境化学科	化学および関連のエンジニアリング分野	H16~	工学部
工学部 電気電子工学科/電気システム工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	H16~	工学部
工学部 機械システム工学科	機械および関連の工学分野/機械および機械関連分野	H17~	工学部
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	H17~	工学部
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	H21~	農学部
工学部 材料物理工学科	物理応用物理学および関連のエンジニアリング分野/物理・応用物理学関連分野	H22~	工学部

※1：大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラム。  
 ※2：日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたこととなります。

## 宮崎大学の研究の特色

“生命・環境・エネルギー・食”をキーワードに研究を推進

膨張・拡散を繰り返す様々な人類の活動が、私たちを抱えている地球の許容限界に遭遇することに気づかされはじめて半世紀。今もなお科学技術による知の集積が進むなか、国際的な枠組みづくりの努力が始まりました。しかし、歴史的、文化的、宗教的な社会環境の隔たりや経済格差等を要因に、人類は、この地球上で持続的な生活を営んでいくための知と技術の共有を為し得ていません。

宮崎大学では、人類の持続的生存を保障していくため、“生命・環境・エネルギー・食”をキーワードに研究を推進し、教育学、医学、工学及び農学の分野に加えて平成28年度から Social Innovationを興すべく、文理融合型の新たな分野（地域資源創成）を加えて基盤的研究拠点の充実を図っています。大学院研究科も、我が国では初めての農学工学総合研究科及び医学獣医学総合研究科と看護学研究科さらには学内共同教育研究施設のフロンティア科学実験総合センターや産業動物防疫リサーチセンター等が関連分野と融合して多くの成果を発信し続けています。また、医工連携や医工教連携による融合研究など福祉社会の充実に向け、相互の研究分野の向上と異分野融合による新たな学問領域の基盤を創出しながら「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして様々な分野において、地方自治体、企業や団体等との連携研究による多くの研究成果が広く地域に還元されています。

### 研究の具体的な取り組み

具体的な取り組みとしては、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、日本学術振興会並びにそれらの関連法人からの支援を得て実施されている、成人T細胞白血病(ATL)など人類の健康を保証していくための臨床開発研究やロコモティブシンドローム予防の普及・拡大に関する基礎的研究、今日、地球上の脅威となっている産業動物の伝染病に対する国際防疫に関する先端的研究の国際拠点整備、

資源再利用に関する研究、太陽光・太陽熱等の自然エネルギー利用及び自然生態系や生物遺伝資源の維持・管理等のプロジェクトが挙げられます。それらを基に、平成25年度から「食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業」（文部科学省 地(知)の拠点整備事業（大学COC事業））に採択され、フードビジネス構想や東九州メディカルバレー構想等を通してさらなる地域活性化の実現を志向しています。さらに、平成27年度からは、本学が主幹校となり4大学・高専や宮崎県などと連携・協働して産業人材を養成し、宮崎県内への就職を推進するCOC+（プラス）事業「大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材の育成」に取り組んでいます。

一方、テニュアトラック制度の導入を早くから進めており、国際公募により採用された若手研究者が十分に能力を発揮できる環境を整備し、本学の教育研究レベルの向上と活性化に寄与しています。また、女性研究者育成・支援に関する多様な事業を継続・発展させ、九州・沖縄全域の11大学が参加する九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）の牽引力として貢献しています。

### 研究の国際性

研究の国際性については、日本学術振興会や国際協力機構等の協力を得て、国際連携センターが支援活動の中心的な役割を果たしており、現在、56件の大学間交流協定と24件の部局間交流協定を締結し、研究者・学生交流を推進しています。また、インドネシア、タイ、ミャンマー、ベトナムに、研究拠点となるサテライトを設置し、さらに元留学生同士が親睦を深めながら相互のネットワークを強化するとともに、今後の優秀な外国人留学生の受入れにつなげることを目的として設立した宮崎大学台湾留学生同窓会及び宮崎大学インドネシア留学生同窓会を活用し、知識・技術の提供や共同研究等を推進しています。

## 宮崎大学の研究戦略・推進体制

### <研究目標>

宮崎大学は、現代社会が直面する医学、農学、工学、人文社会科学等の分野の諸問題に取り組み、独創的、萌芽的、学際的あるいは融合的な研究によって得られた成果を基盤に、人類・社会の持続的発展に寄与する。

### <研究戦略>

上記の研究目標を達成するために、生命科学を基盤とし、環境・食・エネルギーを加えた4つを本学の重点研究分野とし、学部、学科および各センターがそれぞれの枠を超えて連携融合して研究する。また、それぞれの研究分野に関わる人的充実に資し、全学的な組織で推進する。

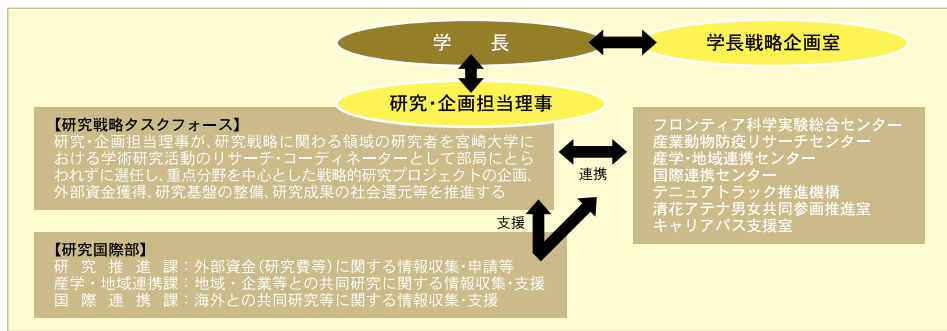
生命現象を遺伝子や細胞レベルでのミクロな視点から、個体や集団レベルでのマクロ的な視点まで幅広く捉え、その基礎研究成果をトランスレーショナルリサーチや医学・工学・農学が連携した応用融合研究(福祉機器や生体材料等の開発等)へ発展させ、その成果を人類の生存や社会の発展へ還元する。

生命現象を遺伝子や細胞レベルでのミクロな視点から、個体や集団レベルでのマクロ的な視点まで幅広く捉え、その基礎研究成果をトランスレーショナルリサーチや医学・工学・農学が連携した応用融合研究(福祉機器や生体材料等の開発等)へ発展させ、その成果を人類の生存や社会の発展へ還元する。



地域に優位性のある農水畜産物の生産から加工・流通・販売に至るプロセスを強化・拡大する研究や食品の機能性や安全性に関する研究、あるいは産業動物の国際的防疫に関する研究を通して、地域産業の活性化を図る研究開発を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

太陽エネルギーやバイオマスなどの再生可能エネルギーの変換・流通・蓄電・蓄熱、省エネルギー、および革新的なエネルギー高度利用など、再生可能エネルギーの普及を図る研究開発を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。



## 平成28年度宮崎大学の大型研究プロジェクト

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
若手研究者支援			
テニユアトラック普及・定着事業	科学技術人材育成補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」	H23～H31	全学
プロトン伝導性酸化物中の内部ポテンシャル分布制御による機能創製	科学研究費補助金(若手研究(A))	H28～H30	TT機構
生理活性物質の探索			
自律神経・ペプチド連関を基軸とするエネルギー代謝と免疫制御機構の解明	戦略的創造研究推進事業(CREST)	H26～H31	医学部
臨床開発研究			
HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患等克服研究事業	H26～H28	医学部
全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明	日本医療研究開発機構研究費 革新的がん医療実用化研究事業	H26～H28	医学部
がん細胞が生成する尿中蛋白質断片の検出を応用した肺癌早期診断システム樹立に関する研究	日本医療研究開発機構研究費 革新的がん医療実用化研究事業	H26～H28	医学部
我が国で発見された生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」の医薬品としての研究開発	大学発新産業創出拠点(START)プロジェクト	H26～H28	医学部
難治性炎症性腸疾患を対象としたアドレノメデュリン製剤による医師主導治験の実施	日本医療研究開発機構研究費 難治性疾患等克服研究事業	H27～H29	医学部
免疫抑制性樹状細胞に発現する新規免疫チェックポイント分子の機能的同定とこれを標的としたがん免疫治療法の開発	日本医療研究開発機構研究費 次世代がん医療創生研究事業	H28～H30	医学部
人獣共通感染症			
わが国における熱帯病・寄生虫症最適な診断治療体制の構築	日本医療研究開発機構研究費 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	H28～H30	医学部
生物遺伝資源			
ミヤコグサ・ダイズリソースの国際的拠点整備-収集・保存・提供-イネの栽培と植物質食料資源の開発	第3期ナショナルバイオリソースプロジェクト 科学技術研究費補助金(新学領域研究(研究領域提案型))	H24～H28 H27～H31	農学部 農学部
資源再利用/自然環境・生態系管理			
溪畔林ネットワーク整備を基軸とした集水域森林管理手法の開発	科学研究費補助金(基盤研究(A))	H25～H28	農学部
低炭素社会を目指す宮崎大学太陽エネルギー最大活用プロジェクト	文部科学省特別経費	H26～H30	工学部、CRC
高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発/共通基盤技術の開発(太陽光発電システムの信頼性評価技術等)/太陽電池性能高度評価技術の開発(太陽電池温度の高精度測定技術開発)	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	H27～H29	工学部
高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発/革新的新構造太陽電池の研究開発/超高効率・低コストIII-V化合物太陽電池モジュールの研究開発(III-Vセル・モジュール開発・評価)	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	H27～H29	工学部
国際連携			
サハラ砂漠周縁の水資源に関わる2大問題解決に向けた調査研究	科学研究費補助金(基盤研究(A))	H25～H28	工学部

※TT機構：テニユアトラック推進機構、CRC：産学・地域連携センター



## 教育学部 多様な学びを通じて、社会に貢献できる教員を目指そう



### 【課程・コース】

- 学校教育課程
- 小中一貫教育コース
- 教職実践基礎コース
- 発達支援教育コース

### 【附属施設】

- 附属教育協働開発センター
- 附属学校園
- 附属幼稚園
- 附属小学校
- 附属中学校

教育学部は、現代のさまざまな教育の課題に対応でき、一人ひとりの子供たちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く人材を養成する学部です。

私たちは、教育に対する強い使命感と、教員としての資質・能力・実践力を備えた、小学校・中学校・小中一貫校（義務教育学校）・幼稚園・特別支援学校などの教員を養成します。

教育学部では、「小中一貫教育」「教職実践基礎」「発達支援教育」の各コース毎にカリキュラムが生まれ、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題、各教科の内容について専門的に学びます。また、それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員に必要とされる、より実践的な教職科目も学習します。

また、本学部には教育協働開発センター及び幼小中の附属学校園といった施設があり、学習カリキュラムの開発、ICT活用による新たな学習・教育環境の構築、現職教員の専門的力量的養成、幼児・初等中等教育の実践及び学生の教育実習や教員間の共同研究が行われています。

## 医学部 地域に<sup>つく</sup>貢献す 世界に<sup>はばた</sup>飛躍く 医の拠点

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学との統合により、宮崎大学医学部となりました。医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指しています。本学科の卒業生は、臨床医師、医学研究者、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。



### 【学科】

- 医学科
- 看護学科

### 【附属施設】

- 附属病院

## 工学部 優しい修学環境のもとで高度な専門技術者を目指そう



### 【学科】

- 環境応用化学科
- 社会環境システム工学科
- 環境ロボティクス学科
- 機械設計システム工学科
- 電子物理工学科
- 電気システム工学科
- 情報システム工学科

### 【学部内センター】

- 工学基礎教育センター
- 環境・エネルギー工学研究センター
- 工学部国際教育センター

工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、“宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部”を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。本学部では、2012年度の大幅な改組改編により、環境ロボティクス学科と工学基礎教育センター、環境・エネルギー工学研究センター、国際教育センターの新設や学科構成の見直しなどを行いました。

【環境応用化学科】【社会環境システム工学科】【環境ロボティクス学科】【機械設計システム工学科】【電子物理工学科】【電気システム工学科】【情報システム工学科】の7学科の連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指しています。

## 農学部 日本、アジア、そして世界の食料・環境・人や動物の感染症問題の克服を目指して



### 【学科】

- 植物生産環境科学科
- 森林緑地環境科学科
- 応用生物科学科
- 海洋生物環境科学科
- 畜産草地科学科
- 獣医科学科

### 【附属施設】

- 附属フィールド科学教育研究センター
- 附属動物病院
- 附属農業博物館

宮崎大学農学部は、宮崎県の農業、日本の農業そして世界の農業を通して、食料問題や環境問題を克服することを使命とし、「食料・環境・生命」をキーワードとして、国内外の農業専門分野で活躍できる人材の育成を行ってきました。しかし、日本の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、地球温暖化などの新たな環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な問題に対応していく必要があります。そこで、農学部では6学科を編成し、それぞれの学科が農学部のどの分野での専門職や指導者を育成するかを明確にするとともに、フィールド教育の場（農場、牧場、演習林、水産実験所、附属動物病院）での実践的教育と研究を進めることで、主体性と創造性に富み、広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

## 地域資源創成学部 地域を創るリーダーになろう！

地域資源創成学部では、企業・産業・地域のマネジメントを学びます。より具体的には経営学を軸に、人文・社会科学諸分野（法学・経済学・社会学など）や農学、工学の知識や思考方法、そして実践的英語を修得する。同時に、実践教育を通して現場での実践力も身につけます。

### ●企業マネジメントコース

製造業、食品加工業、醸造業、銀行、事業承継、起業など民間企業、ビジネスへの進路を希望する学生向けの専門コース

### ●地域産業創出コース

6次産業化事業や観光業への進路を希望する学生向けの専門コース

### ●地域創造コース

国・自治体、経済団体、商工会議所、商工会、NPOなどパブリック組織への進路を希望する学生向けの専門コース



### 【コース】

- 地域資源創成学科
- 企業マネジメントコース
- 地域産業創出コース
- 地域創造コース

## 別科（畜産別科） 地域農業の担い手として活躍できる人材の育成を目指して



宮崎大学畜産別科は、高等学校卒業またはこれと同等以上の学力のある者に対して、農学部附属する牧場（住吉フィールド）で1年間の修学期間内に、全寮制による充実した実習教育と、宮崎大学教員スタッフによる高度な専門教育を行う課程で、畜産関係機関の技術者として、また地域農業の担い手として活躍できる人材を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、本人の申請によって家畜人工授精師（牛）の資格が与えられます。

大学について



大学の教育

大学の研究

学部

別科

大学院

附属施設

学内組織

教育研究施設  
学内共同

国際交流

地域貢献

創立330周年  
農業博物館

キャンパス  
アクセス  
マップ

資料編

## 教育学研究科 高度な指導力を養い、幅広い教育現場で活躍できる指導者へ



**【専攻】**

■学校教育支援専攻  
(修士課程)  
教育臨床心理専修  
日本語支援教育専修

■教職実践開発専攻  
(教職大学院:専門職学位課程)  
学校・学級経営コース  
生徒指導・教育相談コース  
教育課程・学習開発コース  
教科領域教育実践開発コース

教育学研究科では、高度な指導力を養い、幅広い教育現場で活躍できる指導者の育成のため、2つの専攻を用意しています。

学校教育支援専攻では、教育臨床心理学や特別支援教育に関する専門的知識や実践力を備えた教員等を養成する「教育臨床心理専修」、5分野(言語教育・言語文化・言語心理・国際文化・文化共生)の学びで幅広い知識・能力を備えた日本語支援・日本語教育の専門家を養成する「日本語支援教育専修」の2専修を展開し、教育実践力を身につけます。

教職実践開発専攻では、優れた学級経営能力を備えた教員を養成する「学校・学級経営コース」、生徒指導や教育相談のノウハウを学ぶ「生徒指導・教育相談コース」、カリキュラム開発・授業研究に携わる能力を養う「教育課程・学習開発コース」、確かな教科指導能力を備えた人材を育成する「教科領域教育実践開発コース」の4コースを展開し、教職現場を担うための高度な実践力・応用力を備えた教員を養成します。

## 看護学研究科 生命の尊厳を第一に、ケアの本質を研究する

看護学研究科では、変化する地域社会や複雑化する社会情勢のニーズ、さらに、拡大・専門化する看護学や看護学教育の必要性を踏まえ、学部教育を基に更なる能力開発と同時に保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護学研究者・教育者・実践者・指導者を育成することを目的としています。また、地域社会のニーズに応えるとともに、学際的思考と国際的視野から、その研究成果を世界に向けて発信することにより看護学の発展に寄与することを使命としています。

①「研究者育成コース」は、看護学の教育者・研究者としての基礎となる能力の育成を行うコースです。②「実践看護者育成コース」は、批判的思考力と高度な問題解決能力を有する看護実践者の育成を行うコースです。



**【専攻】**

■看護学専攻  
研究者育成コース  
実践看護者育成コース

## 工学研究科 自然豊かな宮崎で未来を切り開く技術者・研究者に



**【専攻】**

■工学専攻  
環境系コース  
エネルギー系コース  
機械・情報系コース

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代と言われています。この知識基盤社会においては、個人の人格形成の上でも、社会の発展・振興の上でも、大学院は極めて重要な役割を果たしています。工学研究科は、学部教育を基盤として、高度化、深化した専門知識・技術を身に付け、さらに隣接する関連領域まで俯瞰できる総合的視野を持った想像力豊かな高度専門技術者を養成することを目的としています。この目的を達成するため、1専攻化して3つのコース(環境系、エネルギー系、機械・情報系)を設け、コミュニケーション能力やマネジメント能力の向上を目的とした共通科目やコース共通科目を提供するとともに、専攻内の専門選択科目を自由に受講できるようにしています。



## 農学研究科 専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して



### 【専攻】

#### ■農学専攻

植物生産環境科学コース  
森林緑地環境科学コース  
応用生物科学コース

海洋生物環境科学コース  
畜産草地科学コース  
農学国際コース

宮崎大学大学院農学研究科は、平成26年度に従来の5専攻を改組し、新たに農学専攻（1専攻6コース）を設置しました。同専攻では、学部教育の専門性をさらに深化させ、国内外の食料、環境、資源及び生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。

また、コースのカリキュラムを原則、全て英語で実施する「農学国際コース」を設け、農学専攻（一専攻）の特色を活かし、国際的に、特にASEAN諸国で重要視されている問題点に対応して、分野横断型課題探求・問題解決型の3つの実践プログラムを提供しています。

## 医学獣医学総合研究科 医学と獣医学が完全に融合した全国唯一の修士・博士研究科

医学獣医学総合研究科では、国内ではじめて医学と獣医学の融合・連携した研究科です。研究科には、修士課程及び博士課程を設置しています。修士課程では、医学・獣医学分野及び医療社会学分野の研究と教育、あるいは高度な診療支援に携わる人材の養成を主眼とし、専門分野に偏らない幅広い基盤的知識の習得、それを基礎とした研究能力を養うことを目的とし、生命科学の発展と社会の福祉向上に寄与することを使命としています。博士課程では、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。



### 【専攻】

修士課程：医科学獣医学専攻

博士課程：医学獣医学専攻

## 農学工学総合研究科 農学と工学が融合した新しい博士後期課程で最先端の研究を！



### 【専攻】

■資源環境科学専攻  
環境共生科学教育コース  
持続生産科学教育コース  
■生物機能応用科学専攻  
生命機能科学教育コース  
水域生物科学教育コース

■物質・情報工学専攻  
新材料エネルギー  
工学教育コース  
生産工学教育コース  
数理情報工学教育コース

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、それらが連携・融合した教育研究領域の深化を図ることにより、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の育成を目指します。このため、研究科では三専攻を設け、①低環境負荷・持続型生産システムの構築と持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、②生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発と地域バイオマス資源の有効物質への変換、そして③ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生と自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発と高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築に関わる教育研究を通じて21世紀の喫緊の課題を解決し社会に貢献します。

## 医学部附属病院



**【本院の理念】**  
診療、教育、研究を通して社会に貢献します。

- 【基本方針】**
1. 患者さんを医療チームの一員とする良質な医療の実践
  2. 地域の要望にこたえる
  3. 先端医療の開発と提供
  4. 人間性豊かな医療人の育成
  5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

医学部附属病院は、昭和52年10月に開設され、総病床数632床を有する宮崎県における中核的医療機関です。診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒業後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続く医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。当院は平成6年10月に特定機能病院の指定、平成25年1月に日本医療機能評価機構による「病院機能評価ver.6.0」を受診、同年4月に認定を受けました。また、平成18年11月からは附属病院再整備に着手し、平成22年5月から新外来診療棟での診療開始や、病棟改修など7年に渡る附属病院再整備も平成25年3月末に完了しました。

さらに、平成24年4月1日に救命救急センターが開設され、同年4月18日にはドクターヘリの運航も開始し、平成25年3月1日からはヘリポートを備えた救命救急センター棟での運航、平成26年4月14日からはドクターカーの配置など、高度な医療技術の提供に貢献しています。

また、平成27年4月1日より、宮崎市立田野病院及び介護老人保健施設さざんか苑の管理・運営を開始しました。これは、指定管理者制度を利用した取組みで、国立大学法人としては全国初の試みであり、多方面から注目を集めています。

地域包括ケアシステムの構築が急務となっている昨今の状況に鑑み、宮崎市立田野病院に新たに設置した「コミュニティ・メディカルセンター」で地域包括・プライマリケアの卒前・卒後の一貫教育を行い、地域で活躍できる総合医・看護師等の養成を行います。

## 附属図書館

附属図書館（以下、「図書館」という）は、本館（木花キャンパス）と医学分館（清武キャンパス）から構成されており、本学における知の拠点として教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積（蔵書数：約63万冊）に加え、電子化された学術系の論文誌、雑誌の情報提供（以下、「電子ジャーナル」という）、学生に対する学修環境の整備などです。

このため、図書館では、学生用図書の実質、電子ジャーナルの整備、宮崎大学学術リポジトリ（学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信）の拡充、図書館の有効活用を図るためのホームページの充実、文献検索講習会の開催など、アクティブラーニング（能動的学修）のためのラーニングcommons等の環境整備に努めています。

現在、大学は社会との連携が強く求められており、そのため図書館では、地域の方への図書館利用や県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図る取り組みを行っています。



<http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>





## 情報基盤センター



情報基盤センターは、情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤、情報システム等の運用管理を行うとともに、情報利用者支援を行います。情報基盤センターは、「情報基盤部門」、「利用者支援部門」で構成され、各部門の主な業務は、以下のとおりです。

### 情報基盤部門

1. 情報化推進の立案・策定・実施
  2. 事業計画の実施及び管理経費の執行
  3. 学内情報基盤の整備、更新及び運用管理
  4. 学内情報ネットワーク及び情報システムの整備、更新及び運用管理
  5. 学外情報ネットワークとの連携、その利用及び支援
- ### 利用者支援部門
1. 学内情報ネットワーク及び情報システム利用者の支援
  2. 情報教育の支援
  3. 各種情報システムの支援
  4. 情報セキュリティ対策
  5. 各種ポリシーの策定・実施

## 安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っていきます。

■主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断とその保健指導等
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全のための調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援
7. 職場復帰のための復職支援



## 障がい学生支援室



障がい学生支援室では、障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生に対し、学内外の関係部局等と連携を図りながら、円滑な修学が可能となるよう支援します。

■主な業務は次のとおりです。

1. 学生の受入方針の策定
2. 学生のための教育方法等の提案及び調整
3. 学生からの相談対応
4. 支援情報等の公開
5. 学生への支援の啓発
6. 施設・設備のバリアフリー化

大学について



大学の教育

大学の研究

学部

別科

大学院

附属施設

学内組織

教育研究施設  
学内共同

国際交流

地域貢献

創立330記念  
農業博物館

キャンパスマップ  
アクセスマップ

資料編

## 産学・地域連携センター



産学・地域連携センターは、「産学・地域連携部門」、「知的財産部門」及び「機器分析支援部門」の3部門で構成され、本学の産学・地域連携の窓口として、産業界や地域の振興に貢献しています。

「産学・地域連携部門」は、科学技術相談や各種イベント等の開催を通して地域・産業界のニーズと大学シーズとのマッチングを行い、共同研究や受託研究への展開と研究技術の実用化を支援しています。また、公開講座等の生涯学習の推進や、中山間地域支援や地域政策に資する調査研究等を通して、地域振興の中核を担う人づくり、まちづくりを推進しています。

「知的財産部門」は、研究成果から生じた知的財産を管理し、特許等の取得や地域・産業界への還元を行っています。

「機器分析支援部門」は、学内共同利用施設として高度な分析機器を多数設置し、研究開発に必要な各種試験や学外からの依頼分析にえています。

## 教育・学生支援センター

教育・学生支援センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っています。教育企画部門は、基礎教育、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を背景に教育方法、教育環境の改善を推進しています。学生支援部門は、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を通じて学生の支援を推進しています。



## フロンティア科学実験総合センター



フロンティア科学実験総合センターは、平成15年の旧宮崎大学と宮崎医科大学の統合以来、宮崎大学の設立理念「生命科学に特色を持つ大学の創造」の具現化を担うコア組織の一つとして活動してきました。同センターは、「生理活性物質研究部門」、「ゲノム生命環境科学研究部門」、「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」及び「実験支援部門」の4部門で構成され、先端的な生命科学研究を推進するとともに、学内の教育・研究活動の幅広い支援を行っています。さらに、「実験支援部門」は、「生物資源分野」、「遺伝資源分野」、「分子形態・機能解析分野」及び「R1分野」の4分野で構成され、当該分野に関連した独自の研究も進めています。木花キャンパスと清武キャンパスにまたがるフロンティア科学実験総合センターは、学部や研究科の枠を超えた教育研究組織として、宮崎大学における生命科学研究推進の原動力となるべく、教育研究活動とその支援を進めてまいります。



## 国際連携センター



国際連携センターは、本学の世界への架け橋として、学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行っています。「国際協力部門」では、学術交流のほか、JICA等と連携して、保健医療、アジア地下水砒素汚染対策、農業開発などの事業を行っています。「留学生支援部門」では、多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を行っています。

## 産業動物防疫リサーチセンター

産業動物防疫リサーチセンターは、宮崎県で発生した口蹄疫と高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を行った経験から、世界水準の感染症教育・研究体制の確立を目指して設置されました。現在、産業動物の重要な伝染病に対する疫学、国際防疫及び診断・予防法に関する先端的研究に取り組んでいます。また、発生時の防疫措置の立案及び再発防止等の適切な対策を講じることのできる危機管理能力を有したグローバルに活躍できる人材を養成しています。平成25年には大型・中型動物の手術設備等を備えた産業動物教育研究センターを新たに設置しました。このように、産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として国内外の畜産基盤の安定化に寄与しています。



肉質評価のためのCTスキャン撮影

## 語学教育センター



語学教育センターは、関係部局と連携し、専門分野を含めた語学教育の企画・立案・実施及び語学教育方法の研究・開発を主体的に推進することにより、海外企業、国際機関等での活躍を可能とする実践的な語学力の向上を図るとともに、海外からの受入留学生に対して、本学での円滑な学習活動を可能とするための日本語教育を行います。

## IR推進センター

IR (Institutional Research) とは、大学で蓄積された様々な情報を収集し、戦略的に大学運営を進めるための根拠となるデータを分析して、大学の機能強化や意思決定を支える情報戦略活動のことです。大学IRには、戦略支援を主体とする「経営IR」と教育支援を主体とする「教学IR」などがあります。

宮崎大学IR推進センターは、IRの普及・推進を目指すために、学内データウェアハウスを構築し分析を行い、事務局をはじめ各学部や附属センターへ構造化情報を中心とした組織、学務、研究等に関する分析結果を提供し、管理・運営を支援する活動を行っています。



宮崎大学では、文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構（JICA）及び各種機関の助成等により、年間約500人もの研究者が海外に派遣されており、外国人研修員等も積極的に受け入れています。また、研究者だけでなく、約30カ国から国費・私費・外国政府派遣の留学生約200名を受け入れ、グローバルな学習環境のもとで、未来を担う人材の育成に努めています。

### 留学生・研究者の受入（長期）



留学生ウェルカムパーティー

宮崎大学では、JICA等と連携し、外国人留学生の受入を積極的に行っています。

特に、農学研究科修士課程では、「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(通称：PEACEプロジェクト)」において、これまで20名以上のアフガニスタン学生を受け入れており、農学部分野における実績は、国内でトップです。

工学研究科修士課程においては、ミャンマーやインドネシアの大学とのダブルディグリープログラムを実施するなど特色ある教育を行っております。

その他、医学獣医学総合研究科においては、平成27年10月から国費外国人留学生特別プログラムに採択され、国境を越えた感染症対策を実施していくための人材育成に重点を置いています。



外国人留学生農泊体験ツアー

### 留学生・研究者の受入（短期）

年間を通じて、短期留学生の受け入れプログラムを多数実施しています。（以下、主な短期プログラムを記載）

#### 【サマープログラム】

毎年7月に3週間実施。宮崎大学を広く海外に発信し、優秀な留学生や研究者を大学に呼び込むために行っており、毎年30名程度の外国人の受入を行っています。



サマープログラム

#### 【さくらサイエンスプラン】

平成26年度から始まった科学技術振興機構（JST）の本事業においては、ミャンマー、モンゴル、ベトナム、タイ、中国、インド及びインドネシアから181名を招聘し、約3週間程度の研修を行いました。



さくらサイエンスプラン

#### 【日本語・日本事情プログラム】

韓国・台湾・中国などの海外協定校の学生を招聘し、日本語・日本文化の講義を受けるとともに、ホームステイプログラムなどを実施しています。

### 外国人留学生・研究者のための施設

#### イスラーム文化研究交流棟



平成26年6月より運用開始。宮崎大学の留学生の約1/3を占めるイスラーム圏の学生に対して、文化的側面からの人権を守るとともに、留学生と日本人の交流を促進する。

#### 清武ドミトリー



平成26年4月より入居開始。清武キャンパスにあり、家具・家電・Wi-fi等が完備。50名入居可能。

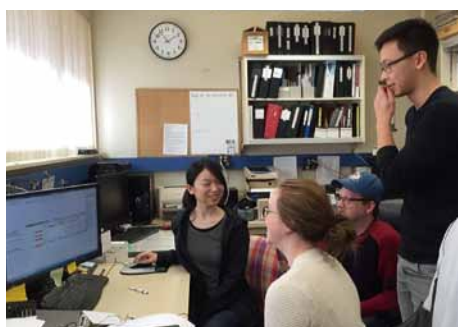
#### 木花ドミトリー



平成27年4月より入居開始。木花キャンパスにあり、4人1グループのシェアタイプ。家具・家電・Wi-fi等が完備。31名入居可能。



## 学生・研究者の海外派遣



学生海外英語研修

宮崎大学では学生交流覚書を締結している大学に学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。さらに、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

また、宮崎大学では英語のスキルを身につけるため、海外の英語研修を行っています。3～4週間の短期派遣で、渡航費以外の授業料や滞在費等は全て大学が負担しています。

さらに、文部科学省の「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」や、JICAの「草の根技術協力事業」等を積極的に活用し、学生や若手研究者を多く海外に派遣しています。

## 学術・学生交流協定

宮崎大学では全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、東南アジアを中心として、80の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、55大学とは学生交流覚書を締結し、活発な学生交流を図っています。

### ●学生相互交流①：大学間交流協定校

宮崎大学では、大学間交流協定校である韓国の順天大学校、中国の南京農業大学、台湾の東呉大学、アメリカのエヴァーグリーン州立大学等との間で6ヶ月～1年程度の学生交流を実施しています。

### ●学生相互交流②：部局間交流協定校

宮崎大学医学部とタイのプリンスオブソンクラ大学ならびに上海交通大学医学院等との間で、医学部のスタッフや学生を対象にした1ヶ月～3ヶ月間の研修プログラムを実施しています。



インフラストラクチャー大学との協定調印式

## 海外オフィス

宮崎大学は4カ国5カ所に海外拠点オフィスを設置し、本学と各大学の学術交流・学生交流を積極的に支援しています。

オフィス名称	マランオフィス	ジョグジャカルタオフィス	バンコクオフィス	ハノイオフィス	ヤンゴンオフィス
国	インドネシア		タイ	ベトナム	ミャンマー
所在地	ブラウィジャヤ大学	ガジャマダ大学	カセサート大学	国立ハノイ農業大学	ヤンゴンコンピュータ大学
常駐職員	0人	0人	1人	1人	2人
設置時期	2009. 11	2014. 11	2012. 10	2015. 3	2014. 12

## 留学生同窓会



台湾同窓会

宮崎大学を卒業して、母国で活躍する留学生のネットワーク強化を目的とした同窓会を設立しています。

国	インドネシア	台湾
設立時期	2014. 10. 17	2014. 6. 13

公開講座等の生涯学習の推進



公開講座「親子で参加体験教室」

宮崎大学では、公開講座や青少年の科学教室等を通して、あらゆる世代の多様な要請に応える教育環境を整備し、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的に、生涯学習の推進を図っています。また、短期滞在型公開講座「オープンカレッジ」では、全国から受講生を募集し、本学の先端的研究を学習・体験する教育プログラムを提供しています。

高等教育コンソーシアム宮崎



公募による卒業研究テーマ発表会

宮崎大学は、県内11の高等教育機関が連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、単位互換、インターカレッジセミナー、インターンシップ事業などを行っています。

地域住民に対する施設等の開放



住吉フィールド

宮崎大学は、附属図書館や農学部附属農業博物館、体育施設等を地域住民に対し開放しており、ホームページからも利用案内や予定表などが閲覧できるようになっています。今後も、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。

遠隔教育、情報提供の推進



インターネット放送局(MyaoH.TV)

宮崎大学では、宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）、宮崎情報ハイウェー21（MJH21）等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内にインターネット放送局（Myaoh.TV）を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。このほか、宮崎科学技術館に「宮崎大学展示コーナー」を設置し、本学の最先端の教育・研究の成果を広く県民に発信しています。

中学・高校等との連携事業



サイエンスキャンプ

宮崎大学では、県内の初等中等教育機関や教育委員会、生涯学習施設等との連携を強化し、次代を担う青少年の教育の充実を図っています。高校生向けの「出前講義」、「公開授業」、中高生向けの「体験授業」、「公開講座」等を継続的に実施しています。また、宮崎県教育委員会と連携して、創造性・探求心を持った理数系人材の育成を目的とした「みやざきの科学教育推進事業」にも取り組んでいます。

宮崎大学サテライト・オフィス



宮崎大学サテライト・オフィス

地域社会への情報発信の場として、また地域の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、更には県内の教育研究機関（高等教育コンソーシアム宮崎）との交流・連携の場として機能することを目的に、サテライト・オフィスを宮崎市の中心部（宮崎市橋通3-3-24MCCビル1階）に設置しています。同オフィスでは、本学及び高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の広報活動をはじめ、宮崎市街地で就職活動・教育活動等を行う学生の支援、放送大学学習相談会の開催等を展開しています。また、通りに面した場所には大型モニターが設置されており、教育研究活動や公開講座等の情報を映像で案内しています。業務時間：火曜日～日曜日 11時～14時、15時～18時（祝日を除く）



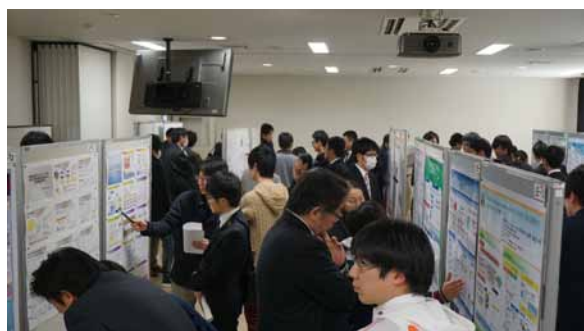
地域との連携・協定



綾町との包括連携協定締結式

宮崎大学では、本学の知的・人的資源を活用して、地域社会の持続的な発展や学術・文化の振興、実践的な技術開発や技術移転等に取り組むため、自治体や企業等と連携・協力に関する包括協定を締結しています。

高度な分析機器の利用による研究支援



分析講演会でのポスターセッション

宮崎大学では、個別の企業や研究者では整備や維持管理の難しい高度な分析機器を機器分析支援施設に集約し、分析に精通する専任スタッフを配置することで、学内外の皆様からの分析技術相談や測定依頼分析等にきめ細やかに対応できる体制を整備しています。また、最新の分析技術の紹介や、分析に基づく研究成果の発表を行う「分析講演会」の開催等を通じた分析技術向上に資する人材育成活動に取り組んでいます。

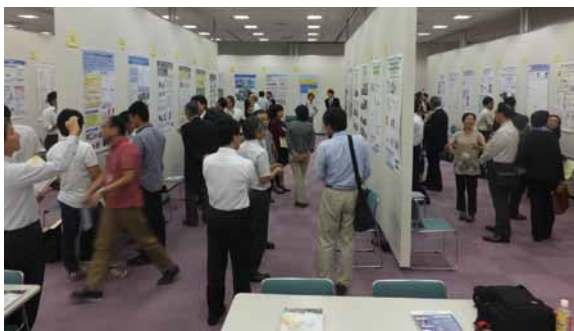
知的財産に係る技術移転及び実用化の推進



BioJapanでの技術紹介

宮崎大学では、本学で創出された知的財産を社会に還元するため、各種イベントへの出展、各種説明会等への参加による積極的な情報発信や技術面談等を実施し、技術移転及び実用化の推進を図っています。

企業等への学術情報の提供



第22回技術・研究交流発表会

宮崎大学では、研究シーズ、共同研究成果あるいは特許等をベースに、さらなる共同研究や産学官連携プロジェクトを推進するため、宮崎大学の研究を紹介するセミナーや共同研究先企業・機関との技術・研究発表交流会の開催や、メールマガジンの配信等を通じて学術情報の提供を行っています。

地域と連携したプロジェクト



海で育くんだ巨大ヤマメ「みやざきサクラマス」  
オール宮崎でのソウルフード「冷や汁」

宮崎大学では、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンの下、「異分野融合」を軸に、「地の利、人の利」を活かした教育研究の推進や地域と共に興す「新たに光る宮崎ブランド」の確立に向けた活動に力を入れています。

具体的には、陸封型ヤマメを冬場の一定期間海水で育てることによって約10倍の体重まで成長させる養殖技術の確立に平成24年度から取り組み、新たな地域ブランド「みやざきサクラマス」の創出に寄与しました。

また、農学部が見いだした宮崎固有の大豆と本学の栽培米から作った味噌を用いて、伝統的な宮崎のソウルフード「冷や汁」を百姓隊が再現し、この一連の取組が産学連携による地域食の取組として「フード・アクション・ニッポンアワード2014」を受賞しました。

大学発ベンチャー企業の育成及び支援



ブルーベリー葉茶の商品化 ～(株)なな葉コーポレーション～

宮崎大学では、本学との共同研究等により得られた成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、一定の期間、研究室を低廉で使用できるといった支援を行っています。

## 宮崎大学創立330記念交流会館



### 【計画施設概要】

#### ■施設規模

延べ面積1,700㎡程度

#### ■主要施設

コンベンションホール（300席程度）  
 コンベンションルーム（50席程度）  
 エントランスホール（展示スペース）  
 学生支援部  
 売店  
 オープンテラス



「宮崎大学創立330記念交流会館」は、2014年（平成26年）に、教育学部が創立130周年、農学部が同90周年、工学部が同70周年そして医学部が同40周年の節目を迎えるに当たり、4学部の歴史（周年）を合計した330を冠した宮崎大学創立330（サンサンマル）記念事業の一環として計画されたもので、宮崎県産のスキ材を主体としたユニークな木造建築物として平成26年11月に完成しました。

本会館は、木花キャンパス中央のアカデミックコアに位置し、周辺には学生会館(食堂等)、附属図書館等もあり、学生の教育と生活支援の豊かなキャンパスライフを提供しています。

会館内には、学生支援部、売店を備え、また、大学の多様な情報を発信する講演・セミナー等で幅広く利用できる多目的ホール及び会議室を併せて整備しており、公開講座や講演会、文化交流活動等の開催など、地域における生涯学習の振興の一助ともなり得るコミュニティセンターの機能も有しています。



## 附属農業博物館

「宮崎大学農学部附属農業博物館」は1935年（昭和10年）に、宮崎高等農林学校（農学部の前身）の開校10周年記念事業として、現在は宮崎県立美術館・図書館が所在する旧船塚キャンパスに設置されました。現在の博物館は、本学の木花キャンパスへの総合移転にともなって、1986年に完成しました。その後、1998年に省令施設となり、2005年には博物館相当施設の指定を受けています。

当館は本館と分館からなり、本館では、農・林・畜・水産業に関する資料を収集展示するとともに、宮崎大学農学部で行われている最新の研究とその成果を紹介しています。また、分館には、視聴覚機材を備えた講義室や実験室があり、学芸員養成を始めとする学生教育ならびに地域の児童生徒や一般を対象とした講座を行っています。





木花キャンパス

# Kibana Campus



**農学部**

- 1 実験研究棟(北)
- 2 講義棟
- 3 実験研究棟(南)
- 4 実験研究棟(獣医)
- 5 附属動物病院
- 6 附属農業博物館
- 7 標本植物温室
- 8 附属フィールド科学教育研究センター

**教育学部**

- 9 講義棟
- 10 実験研究棟
- 11 美術棟
- 12 技術・家庭棟
- 13 音楽棟
- 14 附属教育協働開発センター

**地域資源創成学部**

- 15 講義棟
- 16 実験研究棟

**工学部**

- 17 実験研究棟(A棟)
- 18 講義棟(B棟)
- 19 実験研究棟(C棟)
- 20 機械実習工場
- 21 機械工学実験実習棟
- 22 高電圧実験棟
- 23 土木工学実験実習棟
- 24 実験研究棟(E棟)

- 25 大学会館  
(教育・学生支援センター、国際連携センター、学生食堂、インフォメーションコーナー)
- 26 附属図書館(本館)
- 27 創立330記念交流会館
- 28 事務局棟
- 29 安全衛生保健センター、障がい学生支援室
- 30 情報基盤センター
- 31 フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- 32 産学・地域連携センター(産学・地域連携施設)
- 33 イスラム文化研究交流棟
- 34 産学・地域連携センター(機器分析支援施設)
- 35 フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- 36 総合研究棟
- 37 産業動物教育研究センター
- 38 国際交流宿舎
- 39 女子寄宿舍
- 40 男子寄宿舍
- 41 木花ドミトリー

**太陽光発電システム・太陽熱給湯システム**

- A ビームダウン式太陽集光装置
- B 工学部実験研究棟屋上
- C 附属図書館屋上
- D 国際交流宿舎屋上
- E 集光型太陽光発電システム(体育館北側)
- F 教育学部技術・家庭棟屋上
- G 教育学部実験研究棟屋上

**自然科学野外観察教材開発プロジェクト**

- G 木花キャンパスの地質の全体像
- H 下末吉海進期以降の段丘堆積物
- I 宮崎層群の砂岩泥岩互層
- J ナンバングセル(ハマウツボ科)
- K 照葉樹林

- ♿ 多目的トイレ
- EV エレベーター



大学について



大学の教育

大学の研究

学部

別科

大学院

附属施設

学内組織

教育研究施設

国際交流

地域貢献

創立330記念  
農業博物館

キャンパス  
アクセスマップ

資料編

清武キャンパス

# Kiyotake Campus



## 医学部

- ① 講義実習棟
- ② 総合教育研究棟
- ③ 福利施設
- ④ 基礎臨床研究棟
- ⑤ 附属図書館(医学分館)
- ⑥ 附属病院
- ⑦ 管理棟
- ⑧ フロンティア科学実験総合センター (R|清武分室)
- ⑨ フロンティア科学実験総合センター (生物資源分野)
- ⑩ 外来診療棟
- ⑪ ヘリポート(2カ所)
- ⑫ 清武ドミトリー

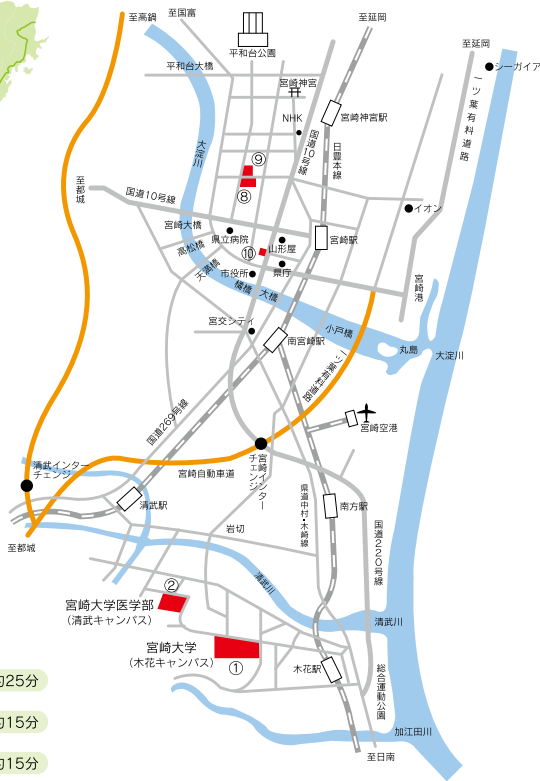
- 多目的トイレ
- エレベーター



## アクセス

### 施設位置図

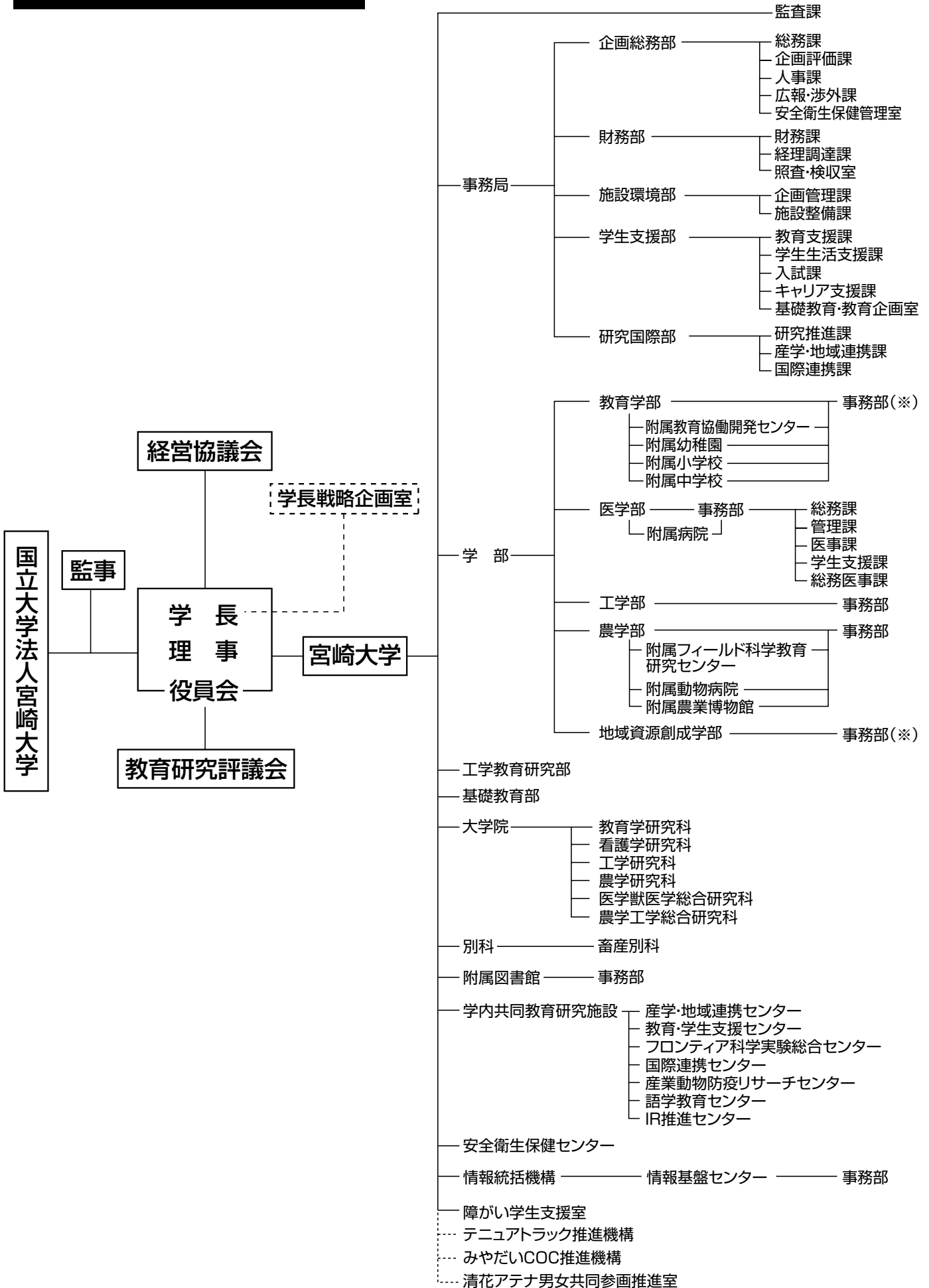
- ① 宮崎大学(木花キャンパス)
- ② 宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③ 住吉フィールド(牧場)
- ④ 田野フィールド(演習林)
- ⑤ // (大納地区)
- ⑥ // (崎田地区)
- ⑦ 延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧ 附属小学校・附属中学校
- ⑨ 附属幼稚園
- ⑩ サテライト・オフィス



### 宮崎大学までの交通機関

(JR南宮崎駅近く)	宮交バス		
宮交シティバスセンター	→	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約25分
		宮交バス	
JR清武駅 (徒歩2分) JR清武駅前バス停	→	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約15分
(徒歩5分) 清武総合支所前バス停	→	タクシー	
宮崎空港	→	宮崎大学まで約8km	→ 約15分
	宮交バス		
宮崎港	→	「宮交シティ行」	→ 約30分
	→	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約25分
宮崎自動車道	→	宮崎インターチェンジから	→ 約10分
東九州自動車道	→	清武インターチェンジから	→ 約10分

# 機構図



(※)共同事務部

大学について  
大学の教育  
大学の研究  
学部  
別科  
大学院  
附属施設  
学内組織  
教育研究施設  
国際交流  
地域貢献  
創立330記念  
農業博物館  
キャンパスマップ  
アクセシブル

資料編

# 役員

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

役員会委員 : ◎印  
 経営協議会委員 : ●印  
 教育研究評議会評議員 : ○印

学長		池ノ上 克	◎●○
理事	副学長 (研究・企画担当)	水光 正仁	◎●○
	副学長 (教育・学生担当)	兒玉 修	◎●○
	医学部附属病院長 (病院担当)	鮫島 浩	◎●○
	事務局長 (総務担当)	増田 宏明	◎●○
	副学長 (女性活躍・人材育成担当)	伊達 紫	◎●○
	法務担当	日野 直彦	◎
学長特別補佐	農学部教授	村上 昇	
	医学部教授	片岡 寛章	
副学長	(目標・評価担当)	松下 洋一	○
	(入試担当)	藤井 良宣	○
	(産学・地域連携担当)	國武 久登	○
	(国際連携担当)	伊丹 利明	○
	(機能強化推進担当)	明石 良	○
監事		成合 修	
		肥田木 良博	
経営協議会学外委員	(社)宮崎県医師会長	河野 雅行	●
	(株)宮崎銀行代表取締役会長	小池 光一	●
	大塚ホールディングス株式会社取締役	高野瀬 忠明	●
	九州保健福祉大学副学長	坂 佳代子	●
	(株)宮崎日日新聞社代表取締役社長	町川 安久	●
	旭化成株式会社取締役兼常務執行役員	水永 正憲	●
	(株)宮崎県商工会議所連合会会長	米良 充典	●
教育研究評議会評議員	教育学部教授	石川千佳子	○
	医学部教授	賀本 敏行	○
	工学部教授	酒井 剛	○
	農学部教授	鉄村 琢哉	○
	地域資源創成学部教授	出口 近士	○
学長顧問	前宮崎大学長	菅沼 龍夫	
事務局	学長戦略企画室長	明石 良	
	監査課長	池田 光弘	
	企画総務部長	土山 欽一	
	総務課長	坂元 博巳	
	企画評価課長	平桑 正利	
	人事課長(事務取扱)	土山 欽一	
	広報・渉外課長	佐藤 俊一	
	安全衛生保健管理室長事務代理	土山 欽一	
	財務部長	尾前 五朗	
	財務課長(事務取扱)	尾前 五朗	
	経理調達課長	内田 成人	
	照査・検収室長事務代理	尾前 五朗	
	施設環境部長	村久木 志郎	
	企画管理課長	高野 潔	
	施設整備課長	松葉瀬 昭仁	
	学生支援部長	上村 茂樹	
	教育支援課長	榮留 文夫	
	学生生活支援課長	宮崎 孝行	
	入試課長	原 典子	
	キャリア支援課長	中山 泰	

	基礎教育・教育企画室長事務代理	上村 茂樹	
	研究国際部長	川畑 順一	
	研究推進課長	富田 博明	
	産学・地域連携課長	黒木 大助	
	国際連携課長	竹島 恒	
教育学部	学部長	添田 佳伸	○
	附属教育協働開発センター長	新地 辰朗	
	附属学校園統括長	河原 国男	
	附属幼稚園長	瀬戸山由香里	
	附属小学校長	鶴戸 周成	
	附属中学校長	安藤 真二	
医学部	学部長	丸山 眞杉	○
	附属病院長	鮫島 浩	
	事務部長	小野 潔	
	総務課長	大西 文昭	
	管理課長	龍元 裕貴	
	医事課長	後藤 節子	
	学生支援課長	岩本 啓三	
	総務医事課長	今村 浩樹	
	コミュニティメディカルセンター長	近藤 千博	
	医学部附属病院付参与	(命)原田隆治	
工学部	学部長	横田 光広	○
	事務長	原 義彦	
農学部	学部長	香川 浩彦	○
	附属フィールド科学教育研究センター長	西脇 亜也	
	附属動物病院長	大澤 健司	
	附属農業博物館長	宇田津 徹朗	
	事務長	道鬼 安男	
地域資源創成学部	学部長	吉田 雅彦	○
	教育学部・地域資源創成学部事務長	下川 新吾	
工学教育研究部	工学教育研究部長	横田 光広	
基礎教育部長	農学部教授	酒井 正博	○
教育学研究科	研究科長	幸 秀樹	○
看護学研究科	研究科長(併)	金子 政時	
工学研究科	研究科長(併)	横田 光広	
農学研究科	研究科長(併)	香川 浩彦	
医学獣医学総合研究科	研究科長(併)	浅田 祐士郎	
農学工学総合研究科	研究科長	林 則行	○
附属図書館	館長(併)	兒玉 修	
	事務長	小川 稔	
産学・地域連携センター	センター長(併)	國武 久登	○
教育・学生支援センター	センター長(併)	兒玉 修	
IT・メディア科学総合センター	センター長(併)	加藤 文司	○
国際連携センター	センター長(併)	伊丹 利明	
産学動物園リサーチセンター	センター長(併)	三澤 尚明	○
語学教育センター	センター長(併)	兒玉 修	
IR推進センター	センター長(併)	明石 良	
安全衛生保健センター	センター長(併)	石田 康	
情報基盤センター	センター長(併)	廿日出 勇	
	事務長	東郷 博史	
障がい学生支援室	室長(併)	兒玉 修	

# 職員数

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

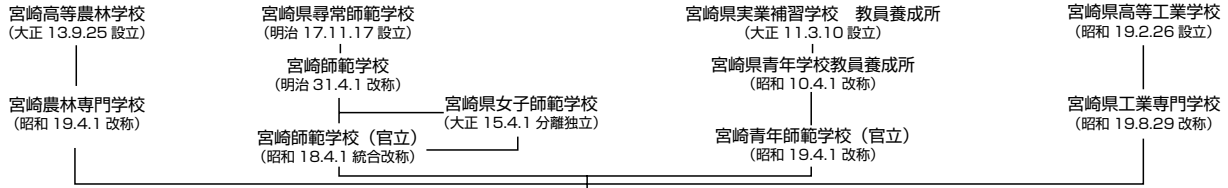
部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(1) 6									(1) 6
事務局												168	168
教育学部					21	29	7			57		13	87
教育学研究科					8	9				17			
附属幼稚園											7		
附属小学校											29	3	67
附属中学校											28		
医学部					47	24	15	99	3	188		121	309
附属病院					4	10	30	109		153		763	916
工学部												33	33
工学教育研究部					42	32		15		89			89
農学部					44	35	3	18		100		19	119
附属フィールド科学教育研究センター					4	1	1	1		7		18	25
附属動物病院					1	1		1		3			3
附属農業博物館					1					1			1
地域資源創成学部					8	9	8			25		4	29
附属図書館												10	10
テニュアトラック推進機構						6	2	3		11			11
みやだい COC 推進機構					1			1		2		1	3
産学・地域連携センター						4		1		5		2	7
教育・学生支援センター						3				3			3
フロンティア科学実験総合センター					3	3		1		7		10	17
国際連携センター						1	1	1		3		2	5
産業動物防疫リサーチセンター					3	2				5			5
語学教育センター					2	9	2			13			13
安全衛生保健センター					1		2			3		3	6
情報基盤センター						1		1		2		9	11
障がい学生支援室						1				1			1
計		1	(1) 2	(1) 6	190	180	71	251	3	695	64	1,179	(2) 1,947

※常勤職員数（ただし、監事（1）・理事（1）については、非常勤で内数）

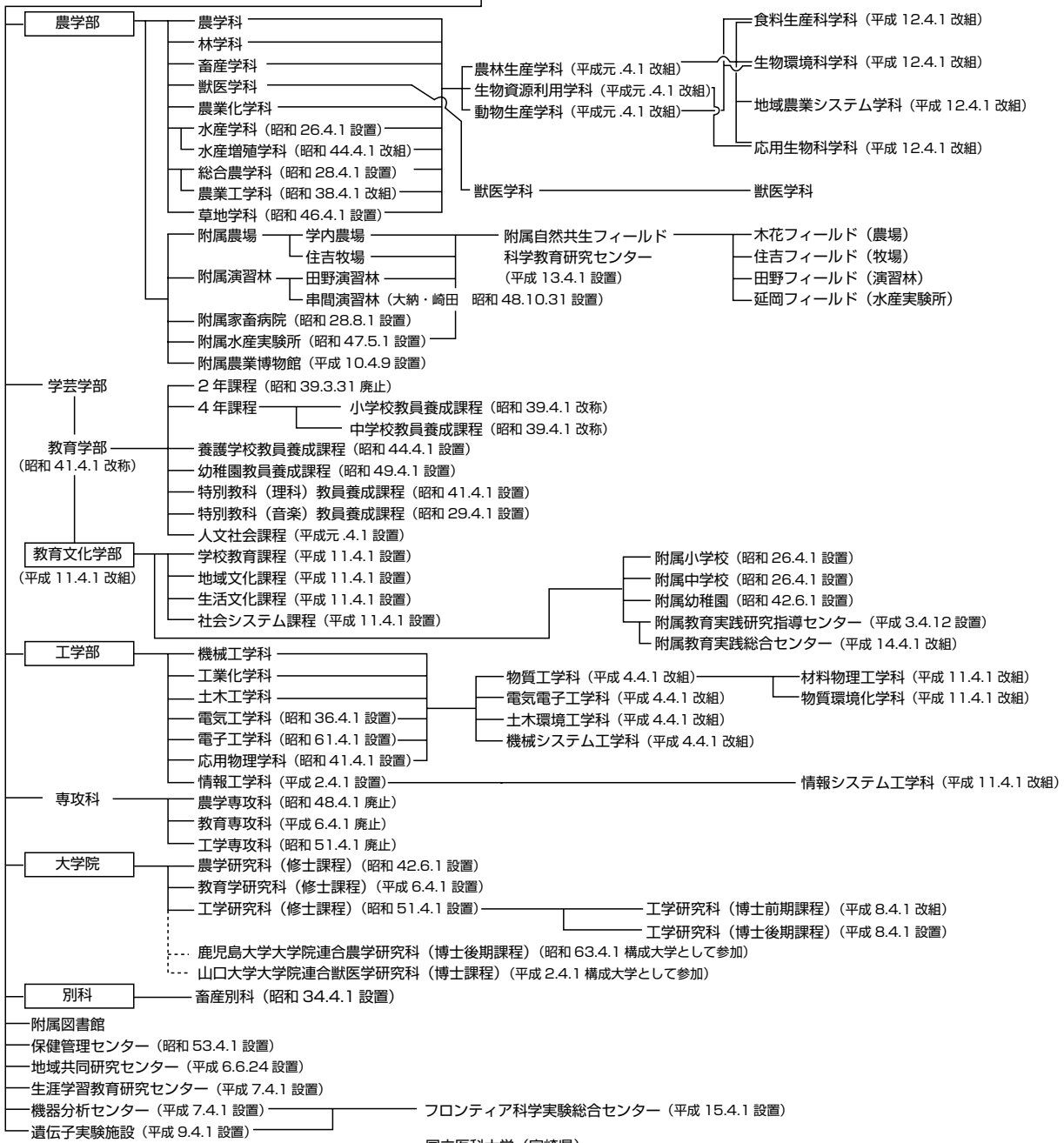
# 歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25		勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	
杉原 清一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1	(事務取扱)	玉井 達二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	(事務取扱)
甲斐 三郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16 ~ S58.11.30	(事務取扱)			
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
	住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30			
	菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H27.9.30			
	池ノ上 克	H27.10.1 ~ H30.9.30			

# 沿革

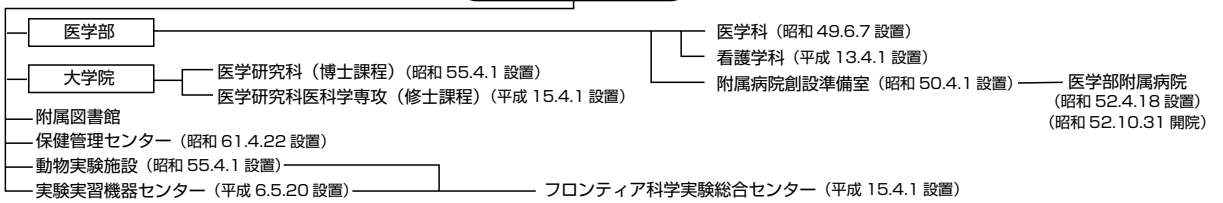


## 旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

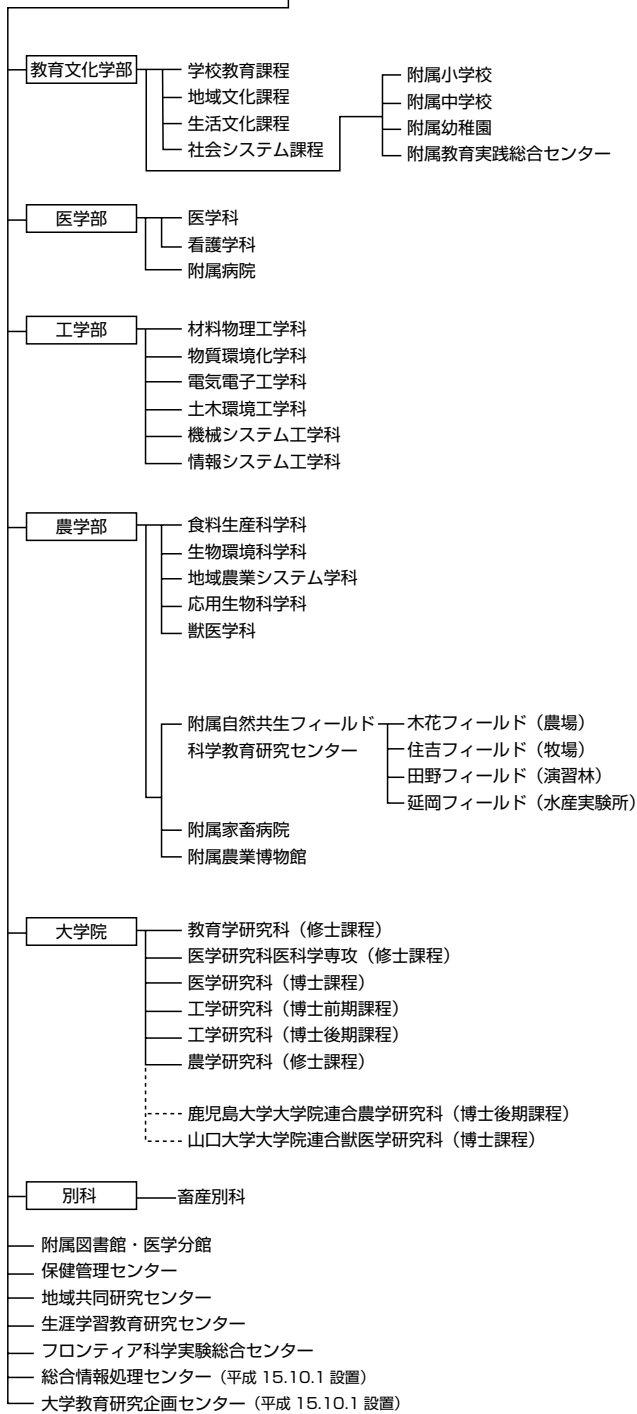


## 国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

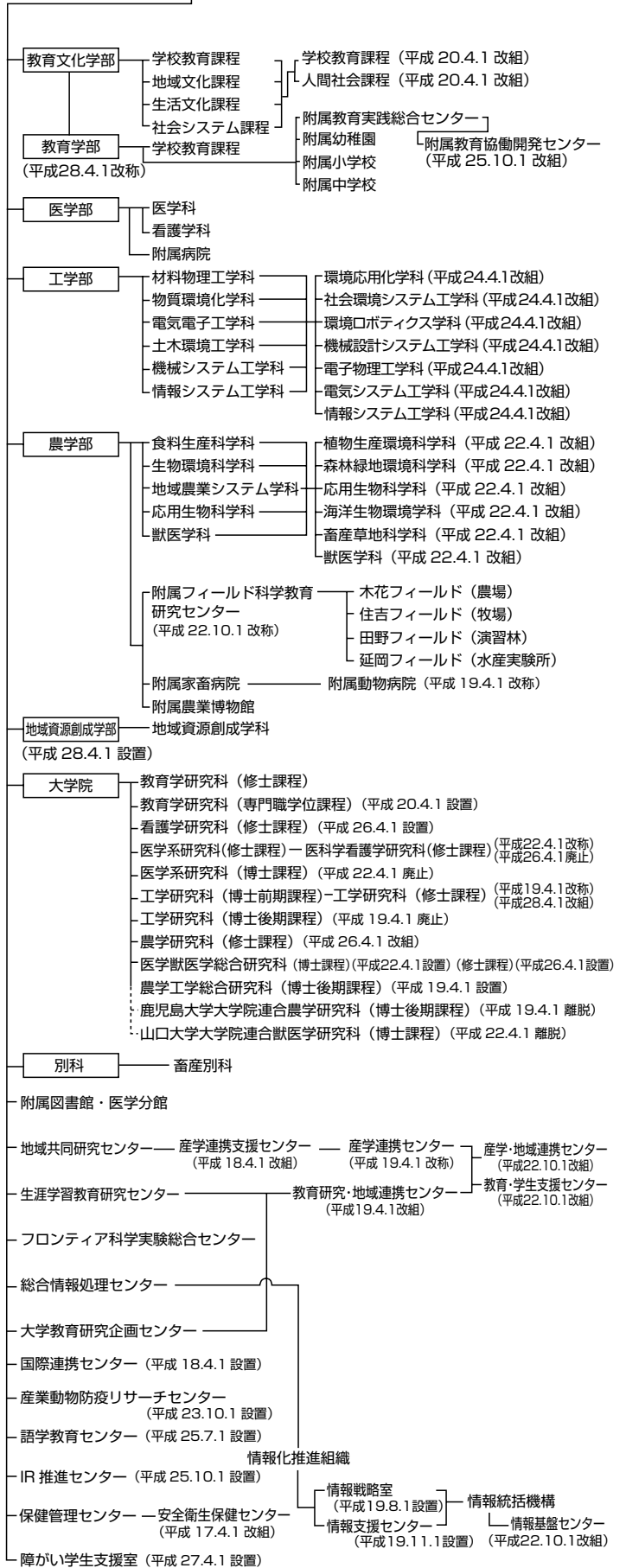
## 宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



**新宮崎大学** (平成 15.10.1 統合)



**国立大学法人宮崎大学** (平成 16.4.1 法人化)



# 沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部看護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地球科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部附属幼稚園教員養成課程を設置	
S49. 6. 7		宮崎医科大学の設置（国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学10周年記念式典挙行
11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院10周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置
H6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認



年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
10.29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典挙行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典挙行
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部に変更 工学部改組	情報処理センターを設置
5.28	宮崎大学創立 50 周年記念式典挙行	
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属 自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6. 5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合セ ンターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 (機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止)	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 (動物実験施設、実験実習機器センターを廃止)
年月日	宮崎大学	
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止	
H16. 3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（カリノ宮崎 8 階ガガイト）に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）	
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる	
H17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置	
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始	
H19. 4. 1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）から離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園	
8. 1	情報戦略室を設置	
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置	
12.26	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを設置	
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定	
H20. 4. 1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置	
11.15	木花キャンパス移転 20 周年記念事業挙行	
H21. 4. 1	医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 105 名）	
7.24	肝疾患診療連携拠点病院に指定	
H22. 4. 1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組 医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 110 名）	
5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始	
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橋通西 3 丁目 MCC ビル 1 階）に移転	
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称	
H23.10. 1	産業動物防疫リサーチセンターを設置 医学部附属病院地域総合医育成センターを設置	
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座を設置	
3.21	医学部血液・血管先端医療学講座の東北拠点を宮崎県立延岡病院に設置	
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置	
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始	
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置	
3.31	医学部附属病院再整備完了	
4. 1	医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンターを宮崎県立日南病院内に設置	
7. 1	語学教育センターを設置	
10. 1	IR 推進センターを設置 教育文化学部附属教育実践総合開発センターを改組し、教育文化学部附属教育協働開発センターを設置	
10.19	創立 330 記念事業統合 10 周年記念講演会・式典・祝賀会を開催	
11.21	産業動物教育研究センターを設置	
H26. 4. 1	大学院医科学看護学研究科（修士課程）を廃止し、看護学研究科（修士課程）及び医学獣医学総合研究科（修士課程）を設置 大学院農学研究科（修士課程）を改組	
4.14	医学部附属病院において、ドクターカーの運行を開始	
11. 8	創立 330 記念事業（落成式、記念式典・祝賀会）を開催	
H27. 4. 1	障がい学生支援室を設置 宮崎市立田野病院及び宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の指定管理運営を開始 宮崎大学医学部附属病院コミュニティ・メディカルセンターを開設	
H27. 9. 1	医学部消化器内科学講座を設置	
H28. 4. 1	地域資源創成学部を設置 教育文化学部を教育学部に改称 大学院工学研究科（修士課程）を改組	

# 学部・大学院等

## 学部

学部	学科・課程	講座・コース
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース 教職実践基礎コース 発達支援教育コース
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学 (組織細胞化学, 超微形態科学, 神経生物学) 機能制御学 (統合生理学, 応用生理学, 腫瘍生化学, 機能生化学, 薬理学, 心理学, 物理科学, 物質科学) 病理学 (構造機能病態学, 腫瘍・再生病態学) 感染症学 (微生物学, 寄生虫学, 免疫学) 社会医学 (公衆衛生学, 法医学, 生命・医療倫理学, 医療社会学, 研究倫理支援, データマネジメント, 数理科学, 英語, ドイツ語) 臨床系医学講座 内科学 (循環体液制御学, 消化器血液学, 神経呼吸内分泌代謝学, 免疫感染病態学) 消化器内科学 外科学 (肝胆膵外科学, 消化管・内分泌・小児外科学, 心血管外科学, 呼吸器・乳腺外科学, 形成外科学) 臨床神経科学 (精神医学, 脳神経外科学) 発達泌尿生殖医学講座 (小児科学, 泌尿器科学, 産婦人科学) 感覚運動医学 (整形外科学, 皮膚科学, 眼科学, 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 顎顔面口腔外科学) 病態解析医学 (放射線医学, 麻酔生体管理学, 救急・災害医学)
	看護学科	基礎看護学講座, 成人・老年看護学講座, 小児・母性(助産専攻)看護学講座, 地域・精神看護学講座
工学部	環境応用化学科	
	社会環境システム工学科	
	環境ロボティクス学科	
	機械設計システム工学科	
	電子物理工学科	
	電気システム工学科	
農学部	情報システム工学科	
	植物生産環境科学科	
	森林緑地環境科学科	
	応用生物科学科	
	海洋生物環境科学科	
	畜産草地科学科	
獣医学科		
地域資源創成学部	地域資源創成学科	企業マネジメントコース 地域産業創成コース 地域創造コース

## 工学教育研究部

## 大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発(教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教育課程・学習開発コース, 教科領域教育実践開発コース
看護学研究科 (修士課程)	看護学	研究者育成コース (基盤システム看護学領域, 地域・精神看護学領域, 成人・老年療養支援看護学領域, 母子健康看護学領域) 実践看護者育成コース (がん看護領域領域, 実践助産学領域, 実践助産学開発領域)
工学研究科 (修士課程)	工学専攻	環境系コース, エネルギー系コース, 機械・情報系コース
農学研究科 (修士課程)	農学専攻	植物生産環境科学コース, 森林緑地環境科学コース, 応用生物科学コース, 海洋生物環境科学コース, 畜産草地科学コース, 農学国際コース
医学獣医学総合研究科 (修士課程)	医科学獣医学専攻	生命科学研究者育成コース, 高度医療関連技術師養成コース, 生命倫理コーディネーターコース
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	医学獣医学	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

## 寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
医学部	地域医療・総合診療医学講座	平成22年4月1日～	宮崎県
	血液・血管先端医療学講座	平成24年2月1日～	宮崎県、延岡市

# 附属図書館

## 蔵書構成（本館）

（平成 28 年 4 月 1 日現在）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	18,536	20,290	30,431	100,229	71,653	50,363	34,463	20,184	11,840	29,558	387,547
洋書	4,080	7,546	4,606	16,637	40,385	11,276	10,238	2,252	4,555	12,139	113,714
合計	22,616	27,836	35,037	116,866	112,037	61,639	44,701	22,436	16,395	41,697	501,261

## 蔵書構成（医学分館）

（平成 28 年 4 月 1 日現在）

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,586	4,978	7,059	4,707	460	766	24,556	12,147	22,816	34,963	23,689	36,634	60,323	4,874	568	5,442	125,284

## 雑誌情報

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	8,715	2,180
洋雑誌	2,880	1,766
合計	11,595	3,946

## 開館時間

	本館			医学分館	
	授業期	試験期	休業期	授業期	休業期
月曜日～金曜日	8:40～21:00	8:40～21:00	9:00～17:00	9:00～20:00	9:00～17:00
土曜日・日曜日	10:00～17:00	10:00～18:00	休館	13:15～17:00	休館
祝日	休館	10:00～18:00	休館	休館	休館

## 休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始（12/28-1/4）

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

## 利用状況

（平成 27 年度）

区分	本館		医学分館		
入館者（人）	187,474		157,654		
〔うち学外者（人）〕	〔596〕		〔172〕		
貸出	人数（人）	冊数（冊）	人数（人）	冊数（冊）	
	学生	7,376	14,756	5,557	9,512
	教職員	1,297	10,131	693	1,373
	学外者	284	864	39	91
	合計	8,957	25,751	6,289	9,689
レファレンスサービス（件）		3,282		681	
学外文献	依頼（件）	1,840		972	
複写	受付（件）	517		1,501	

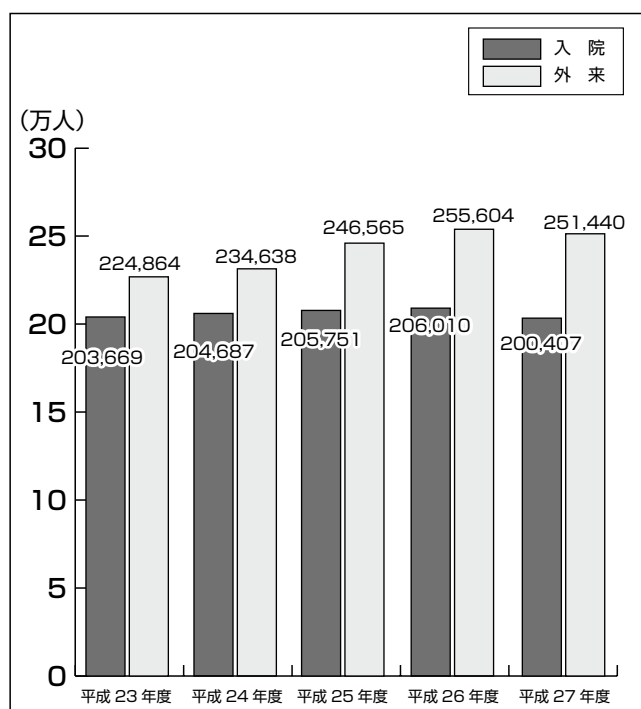
## 平成 27 年度医学部附属病院患者数

科名	区分	入院			外来			
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
第 1 内科		43	18,227	49.8	2,456	16,356	18,812	77.4
第 2 内科		41	17,649	48.2	1,331	15,487	16,818	69.2
第 3 内科		41	17,219	47.0	1,485	15,252	16,737	68.9
膠原病感染症内科		11	4,948	13.5	540	6,666	7,206	29.7
精神科		36	7,082	19.3	450	6,571	7,021	28.9
小児科		20	9,289	25.4	604	15,664	16,268	66.9
肝胆膵外科			9,276	25.3	379	2,594	2,973	12.2
消化管・内分泌・小児外科			9,530	26.0	516	3,601	4,117	16.9
心臓血管外科		80	6,625	18.1	244	1,430	1,674	6.9
呼吸器・乳腺外科			4,962	13.6	253	3,243	3,496	14.4
形成外科			67	0.2	132	1,231	1,363	5.6
整形外科		48	19,115	52.2	3,217	48,850	52,067	214.3
皮膚科		17	5,591	15.3	1,560	12,919	14,479	59.6
泌尿器科		23	9,373	25.6	808	11,066	11,874	48.9
眼科		22	8,958	24.5	1,863	16,059	17,922	73.8
耳鼻咽喉科		28	10,547	28.8	1,469	11,904	13,373	55.0
産科婦人科		24	18,215	49.8	792	9,866	10,658	43.9
放射線科		4	876	2.4	481	3,244	3,725	15.3
麻酔科		2	478	1.3	680	3,402	4,082	16.8
脳神経外科		20	8,712	23.8	345	4,071	4,416	18.2
歯科口腔外科・矯正歯科		13	4,735	12.9	1,721	17,057	18,778	77.3
救命救急センター		20	8,933	24.4	651	278	929	3.8
がん診療部					77	2,575	2,652	10.9
計		※ 632	200,407	547.6	22,054	229,386	251,440	1,034.7

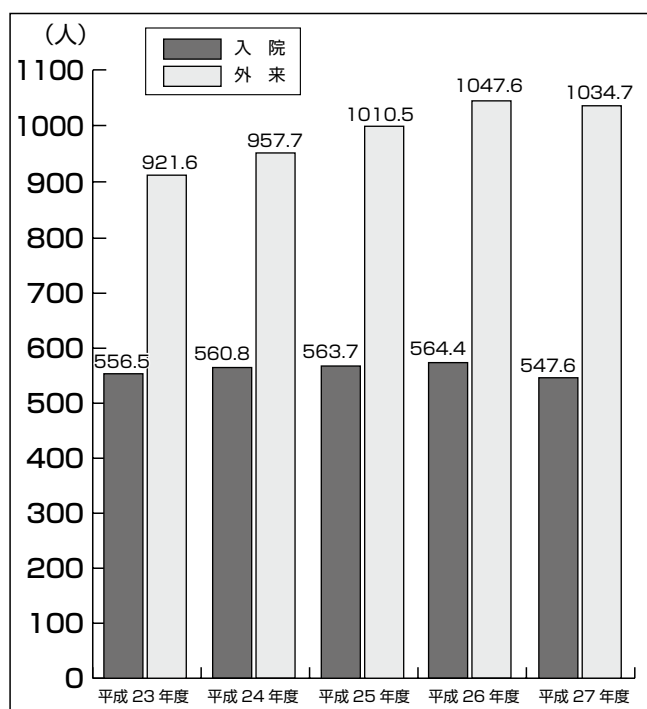
※はその他の病床 139 床を含む

## 年度別患者数

### 延患者数



### 1日平均患者数



# 学生・生徒・児童及び園児数

## 1. 学 部

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育文化学部	学校教育課程				154	160	163			477
	人間社会課程				82	82	95			259
	計				236	242	258			736
教育学部	学校教育課程	120	480	127						127
	計	120	480	127						127
医学部	医学科	110	660	112	131	(1) 111	(1) 115	116	109	(2) 694
	看護学科	{10} 60	{20} 240	60	63	60	61			244
	計	{10} 170	{20} 900	172	194	(1) 171	(1) 176	116	109	(2) 938
工学部	環境応用化学科	58	232	58	57	58	60			233
	社会環境システム工学科	53	212	53	53	53	57			216
	環境ロボティクス学科	49	196	49	(1) 50	49	54			(1) 202
	機械設計システム工学科	54	216	(2) 56	(1) 55	(3) 58	(3) 74			(9) 243
	電子物理工学科	53	212	53	(1) 54	(1) 56	(1) 62			(3) 225
	電気システム工学科	49	196	49	51	54	54			208
	情報システム工学科	54	216	54	55	57	(1) 79			(1) 245
	材料物理工学科						2			2
	物質環境化学科						2			2
	電気電子工学科						8			8
	土木環境工学科						(1) 6			(1) 6
	機械システム工学科						(1) 9			(1) 9
	計	{10} 370	{20} 1,480	(2) 372	(3) 375	(4) 385	(7) 467			(16) 1,599
農学部	植物生産環境科学科	52	208	(1) 52	50	54	56			(1) 212
	森林緑地環境科学科	52	208	(2) 52	50	50	59			(2) 211
	応用生物科学科	57	228	(1) 57	56	51	76			(1) 240
	海洋生物環境学科	33	132	(2) 34	29	(1) 32	31			(3) 126
	畜産草地科学科	61	244	(1) 61	48	51	57			(1) 217
	獣医学科	30	180	31	30	31	30	31	31	184
	計	285	1,200	(7) 287	263	(1) 269	309	31	31	(8) 1,190
地域資源 創成学部	地域資源創成学科	90	360	96						96
	計	90	360	96						96
合計	{20} 1,035	{40} 4,420	(9) 1,054	(3) 1,068	(6) 1,067	(8) 1,210	147	140	(26) 4,686	

( ) 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分を外数

## 2. 大学院（修士課程）

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	8	16	(2) 10	(1) 10	(3) 20
	計	8	16	(2) 10	(1) 10	(3) 20
医科学看護学 研究科	医科学専攻				1	1
	看護学専攻				4	4
	計				5	5
看護学研究科	看護学専攻	10	20	13	15	28
	計	10	20	13	15	28
工学研究科	工学専攻			(8) 144		(8) 144
	応用物理学専攻	134	268		24	24
	物質環境化学専攻				(2) 29	(2) 29
	電気電子工学専攻			(4) 4	(4) 45	(8) 49
	土木環境工学専攻			(5) 5		(5) 15
	機械システム工学専攻			(2) 2		(2) 19
	情報システム工学専攻			(3) 3	(1) 16	(4) 19
	計	134	268	(22) 158	(7) 141	(29) 299
農学研究科	農学専攻	68	136	(16) 80	(9) 52	(25) 132
	応用生物学専攻				1	1
	計	68	136	(16) 80	(9) 53	(25) 133
医学獣医学 総合研究科	医科学獣医学専攻	8	16	(1) 11	(6) 17	(7) 28
	計	8	16	(1) 11	(6) 17	(7) 28
合計		228	456	(41) 272	(23) 241	(64) 513

（ ）内は外国人留学生で内数

## 3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員				
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
医学系研究科	医学専攻						11	11
	細胞・器官系専攻						1	1
	生体制御系専攻						3	3
	計						15	15
医学獣医学総合 研究科	医学獣医学専攻	23	92	(12) 46	(10) 32	(13) 34	(7) 38	(42) 150
	計	23	92	(12) 46	(10) 32	(13) 34	(7) 38	(42) 150
農学工学 総合研究科	資源環境科学専攻	7	21	(4) 13	(4) 9	(5) 16		(13) 38
	生物機能応用科学専攻	4	12		(2) 4		9	(2) 15
	物質・情報工学専攻	5	15	(2) 4	(1) 5	(3) 15		(6) 24
	計	16	48	(6) 19	(7) 18	(8) 40		(21) 77
山口大学大学院 連合獣医学研究科	獣医学専攻		※				1	1
	計		※				1	1
合計		39	140	(18) 65	(17) 50	(21) 74	(7) 54	(63) 243

（ ）内は外国人留学生で内数

※平成 22 年度から医学獣医学総合研究科の設置に伴い、山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

#### 4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 （教職大学院）	28	56	25	22	47

#### 5. 別 科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	0

#### 6. 科目等履修生・研究生

学部・研究科		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修留学生	特別研究学生
学部	教育文化学部	2		8	3	
	教育学部	2	21	4		
	医学部					
	工学部		4			
	農学部	27	1	1		
	地域資源創成学部			2		
大学院	教育学研究科					
	医科学看護学研究科					
	看護学研究科					
	工学研究科					
	農学研究科					
	医学系研究科					
	医学獣医学総合研究科（修士）					
	医学獣医学総合研究科（博士）	1				1
	農学工学総合研究科					
合計	32	26	15	3	1	

#### 7. 附属学校園

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

附属幼稚園	区分	定員				現員				学級数	
		3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計		
附属幼稚園	2 年保育	—	20	32	52		22	20	42	計 5 学級	
	3 年保育	28	20	20	68	26	20	19	65		
	計	28	40	52	120	26	42	39	107		
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		計
	普通学級	105	660	104	99	99	101	99	109	611	各学年 3 学級 計 18 学級
	特別支援学級	4	24	3	2	1	0	1	3	10	計 3 学級 1.2年、3.5年、6年
計	109	684	107	101	100	101	100	112	621		
附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数			
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計				
	普通学級	160	480	160		158		157	475	各学年 4 学級 計 12 学級	
	特別支援学級	8	24	1		4		7	12	各学年 1 学級 計 3 学級	
計	168	504	161		162		164	487			

# 平成 28 年度入学状況

## 1. 学 部

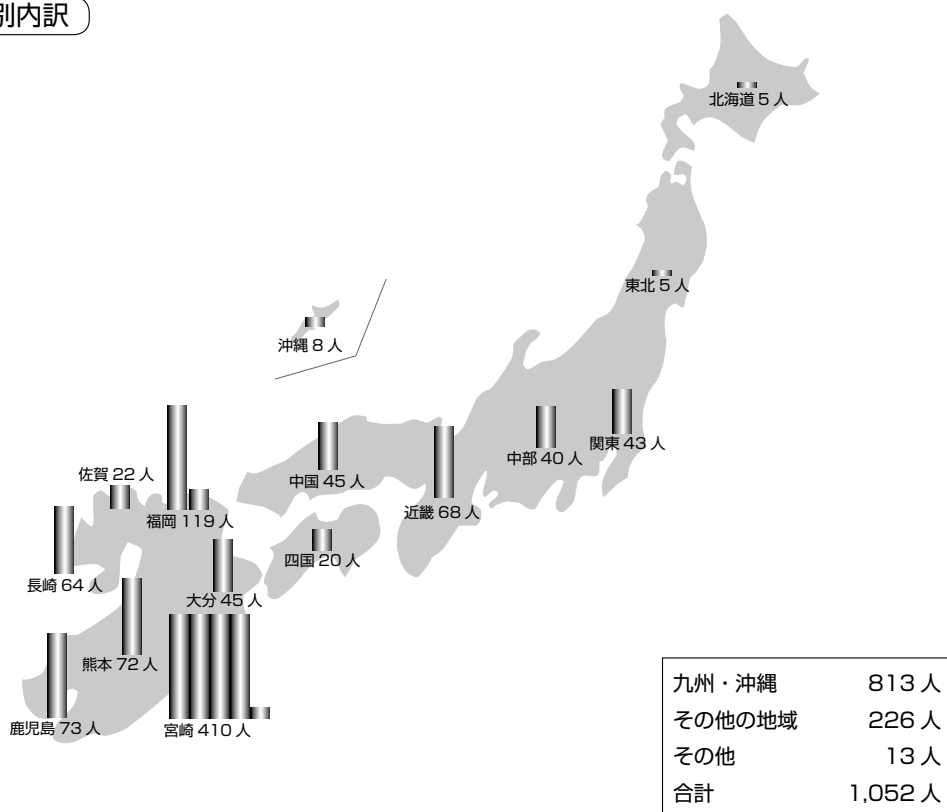
学部	学科・課程		入学定員	志願者			入学者		
				男	女	計	男	女	計
教育学部	小中一貫教育コース	小学校主免専攻	50	141	135	276	29	25	54
		中学校主免専攻	40	121	84	205	19	22	41
	教職実践基礎コース		10	4	9	13	3	8	11
	発達支援教育コース	子ども理解専攻	10	3	15	18	1	9	10
		特別支援教育専攻	10	7	30	37	1	10	11
	計		120	276	273	549	53	74	127
医学部	医学科		110	(2) 403	(1) 299	(3) 702	69	41	110
	看護学科		60	15	146	161	4	56	60
	計		170	(2) 418	(1) 445	(3) 863	73	97	170
工学部	環境応用化学科		58	(2) 225	93	(2) 318	41	17	58
	社会環境システム工学科		53	(1) 354	42	(1) 396	51	2	53
	環境ロボティクス学科		49	(1) 167	21	(1) 188	44	5	49
	機械設計システム工学科		54	(2) 281	16	(2) 297	(2) 52	4	(2) 56
	電子物理工学科		53	202	17	219	52	1	53
	電気システム工学科		49	(2) 210	7	(2) 217	49	0	49
	情報システム工学科		54	(6) 325	30	(6) 355	50	4	54
	計		370	(14) 1,764	226	(14) 1,990	(2) 339	33	(2) 372
農学部	植物生産環境科学科		52	(1) 142	112	(1) 254	(1) 31	(1) 21	(1) 52
	森林緑地環境科学科		52	(1) 158	73	(1) 231	(2) 37	(1) 15	(2) 52
	応用生物科学科		57	(2) 112	81	(2) 193	(1) 35	(1) 22	(1) 57
	海洋生物環境学科		33	(1) 114	54	(1) 168	(1) 22	(1) 12	(2) 34
	畜産草地科学科		61	(1) 79	141	(1) 220	(1) 19	(1) 42	(1) 61
	獣医学科		30	(2) 130	126	(2) 256	16	15	31
	[グローバル人材育成入試]		[10]	(7) 7	(2) 2	(9) 9	(6) [6]	(1) [1]	(7) [7]
	計		285	(13) 742	(2) 589	(15) 1,331	(6) 160	(1) 127	(7) 287
創地域資源成学部	地域資源創成学科		90	151	112	263	54	42	96
	計		90	151	112	263	54	42	96
合 計			1,035	(29) 3,351	(3) 1,645	(32) 4,996	(8) 679	(1) 373	(9) 1,052

( ) 内は外国人留学生で内数

※農学部のグローバル人材育成入試の定員 10 名及び入学者数 7 名は、獣医学科を除く農学部の定員 255 名及び入学者数 256 名にそれぞれ含まれる。



## 出身高校所在地域別内訳



## 2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	8	3	(3) 8	(3) 11	3	(2) 7	(2) 10
教育学研究科（専門職学位）	28	18	14	32	13	12	25
看護学研究科（修士）	10		12	12		12	12
工学研究科（修士）	134	(7) 168	(2) 14	(9) 182	(6) 132	(2) 12	(8) 144
農学研究科（修士）	68	(10) 60	(2) 38	(12) 98	(10) 49	(2) 31	(12) 80
医学獣医学総合研究科（修士）	8	4	(1) 6	(1) 10	4	(1) 6	(1) 10
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(4) 29	(3) 7	(7) 36	(4) 25	(2) 6	(6) 31
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(1) 9	(3) 5	(4) 14	(1) 8	(3) 5	(4) 13
計	295	(22) 291	(14) 104	(36) 395	(21) 234	(12) 91	(33) 325

( ) 内は外国人留学生で内数

## 3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	0	0	0	0	0	0

# 卒業生・修了者数

## 1. 学部

学部	学科・課程	平成27年度 卒業生数	全卒業者数	備考		
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年度廃止		
	2年課程 第2部		267			
	小学校教員養成課程		4,782			
	中学校教員養成課程		2,812			
	養護学校教員養成課程		486			
	幼稚園教員養成課程		602			
	特別教科(理科)教員養成課程		612			
	特別教科(音楽)教員養成課程		984			
	人文社会課程		676			
	計		12,271			
教育文化学部	学校教育課程	155	1,714	平成11年度教育学部を改組 平成20年度学校教育課程、地域文化課程、 生活文化課程、社会システム課程を改組		
	人間社会課程	88	389			
	地域文化課程		279			
	生活文化課程		373			
	社会システム課程		529			
	計	243	3,284			
医学部	医学科	96	3,568			
	看護学科	65	798			
	計	161	4,366			
工学部	機械工学科		1,428	平成4年機械工学科、工業化学科、土木工 学科、電気工学科、電子工学科、応用物理 学科を改組		
	工業化学科		1,297			
	土木工学科		1,577			
	電気工学科		1,191			
	電子工学科		231			
	応用物理学科		921			
	物質工学科		708			
	情報工学科		316			
	材料物理学科	8	584			
	物質環境化学科	7	865			
	電気電子工学科	18	1,758	平成11年物質工学科、情報工学科を改組		
	土木環境工学科	7	1,107			
	機械システム工学科	22	967			
	情報システム工学科	12	709			
	環境応用化学科	59	59			
	社会環境システム工学科	49	49			
	環境ロボティクス学科	44	44			
	機械設計システム工学科	39	39			
	電子物理学科	44	44			
	電気システム工学科	46	46			
情報システム工学科(新)	39	39	平成24年材料物理学科、物質環境化学 科、電気電子工学科、土木環境工学科、機 械システム工学科、情報システム工学科を 改組			
計	394	13,979				
農学部	農学部 第1部			50	昭和28年度廃止	
	農学部 第2部			52		
	農学科			1,285		
	林学科			1,081		
	畜産学科			1,068		
	獣医学科	31		1,753		
	農業化学科			1,304		
	水産学科			292		
	水産増殖学科		626	昭和44年度水産学科を改組		
	総合農学科		302			
	農業工学科		922			
	草地学科		331			
	農林生産学科		1,265	昭和38年度総合農学科を改組		
	生物資源利用学科		625			
	動物生産学科		785			
	植物生産環境科学科	48	150			
	森林緑地環境科学科	49	145			
	応用生物科学科(新)	45	144			
	海洋生物環境学科	33	90			
	畜産草地科学科	48	146			
	食料生産科学科		610			
	生物環境科学科		657			
	地域農業システム学科	1	536			平成12年度農林生産学科、生物資源利用 学科、動物生産学科を改組
	応用生物科学科		546			
	計	255	14,765			
	合計		1,053	48,665		

外国人留学生を含む

## 2. 大学院

研究科	平成 27 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（修士）	7	548	
医科学看護学研究科（修士）	7	76	
看護学研究科（修士）	3	3	平成 22 年度改称
医学系研究科（修士）		115	
医学系研究科（博士）	4	423	
工学研究科（修士）	123	1,038	平成 19 年度改称
工学研究科（博士前期）		1,999	
工学研究科（博士後期）		95	平成 18 年度をもって廃止
農学研究科（修士）	70	2,084	
農学工学総合研究科（博士後期）	13	94	
医学獣医学総合研究科（修士）	13	13	
医学獣医学総合研究科（博士）	19	35	
合計	259	6,523	

### 専門職大学院

研究科	平成 27 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（専門職学位）	26	184	

## 3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

## 4. 別科

研究科	平成 27 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	4	318	

# 博士の学位授与者数

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

区分	課程博士		論文博士	
	平成 27 年度	累 計	平成 27 年度	累 計
医学獣医学総合研究科	20	37		0
医学系研究科	7	435		219
工学研究科		113		5
農学工学総合研究科	15	111		1

# 平成27年度就職状況

## 1. 学部

(平成28年5月1日現在)

区分	卒業者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	243(122)	19( 7)	190( 98)	82( 45)	108( 53)	34(17)
医学部	161( 95)	11(11)	53( 48)	26( 23)	27( 25)	97(36)
工学部	395( 47)	139( 9)	235( 37)	65( 12)	170( 25)	21( 1)
農学部	255(112)	72(28)	158( 71)	45( 21)	113( 50)	25(13)
合計	1,054(376)	241(55)	636(254)	218(101)	418(153)	177(67)

( )内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員(教員)試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

## 産業別就職状況

(平成28年5月1日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業			3( 0)	14( 4)	17( 4)
漁業					
鉱業、採石業、砂利採取業					
建設業	3( 0)		30( 7)	8( 1)	41( 8)
製造業	8( 4)		92(12)	15( 8)	115( 24)
電気・ガス・熱供給・水道業			8( 0)		8( 0)
情報通信業	6( 2)		23( 1)	8( 6)	37( 9)
運輸業、郵便業	10( 5)		2( 0)		12( 5)
卸売業、小売業	10( 6)		3( 2)	21(10)	34( 18)
金融業、保険業	14( 8)		4( 0)	9( 1)	27( 9)
不動産業、物品賃貸業	4( 3)				4( 3)
学術研究、専門・技術サービス業			17( 3)	17(10)	34( 13)
宿泊業、飲食サービス業	5( 2)		1( 1)	6( 4)	12( 7)
生活関連サービス業、娯楽業	3( 2)		2( 0)	1( 0)	6( 2)
教育、学習支援業	84(47)		8( 0)	2( 0)	94( 47)
医療、福祉	8( 2)	53(48)	3( 1)	1( 0)	65( 51)
複合サービス業	8( 3)		1( 0)	10( 5)	19( 8)
サービス業	1( 0)		2( 1)	1( 0)	4( 1)
公務	26(14)		35( 9)	45(22)	106( 45)
その他			1( 0)		1( 0)
合計	190(98)	53(48)	235(37)	158(71)	636(254)

( )内は女子で内数

## 2. 大学院

### ◇(修士・専門職学位)課程

(平成28年5月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	33(18)		32(17)	21(13)	11( 4)	1( 1)
医科学看護学研究科	7( 3)					7( 3)
看護学研究科	3( 2)					3( 2)
医学獣医学総合研究科	13( 8)	1(1)	5( 2)	1( 1)	4( 1)	7( 5)
工学研究科	123(14)		118(13)	8( 1)	110(12)	5( 1)
農学研究科	70(19)	5(2)	55(13)	10( 3)	45(10)	10( 4)
合計	249(64)	6(3)	210(45)	40(18)	170(27)	33(16)

### ◇(博士後期・一貫)課程

(平成28年5月1日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	4(1)				4(1)
医学獣医学総合研究科	19(5)				19(5)
農学工学総合研究科	13(2)	12(2)	5(0)	7(2)	1(0)
合計	36(8)	12(2)	5(0)	7(2)	24(6)

( )内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員(教員)試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

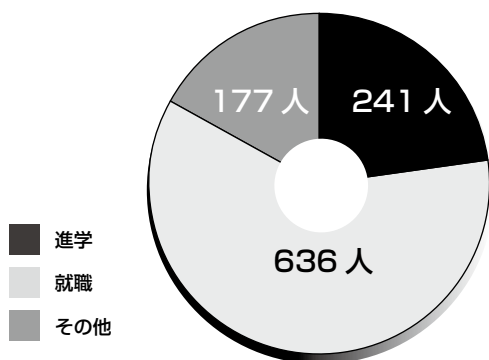
■産業別就職状況

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

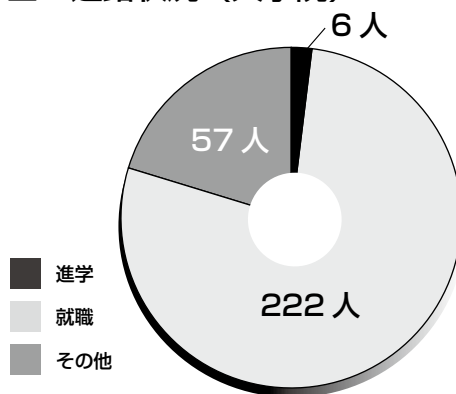
区分	教育学研究科	医科学看護学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	医学獣医学総合研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業				2( 1)	2( 1)		1(0)	5( 2)
漁業								
鉱業、採石業、砂利採取業								
建設業				20( 4)	6( 3)			26( 7)
製造業				64( 3)	14( 3)		1(0)	79( 6)
電気・ガス・熱供給・水道業				2( 0)				2( 0)
情報通信業				16( 3)	2( 2)			18( 5)
運輸業、郵便業				1( 0)				1( 0)
卸売業、小売業					12( 2)			12( 2)
金融業、保険業								
不動産業、物品賃貸業								
学術研究、専門・技術サービス業				5( 0)	5( 0)		2(0)	12( 0)
宿泊業、飲食サービス業								
生活関連サービス業、娯楽業	1( 0)							1( 0)
教育、学習支援業	30(16)			3( 1)	3( 1)		7(2)	43(20)
医療、福祉	1( 1)			1( 0)	1( 1)	5(2)	1(0)	9( 4)
複合サービス業					2( 0)			2( 0)
サービス業					2( 0)			2( 0)
公務				4( 1)	6( 0)			10( 1)
その他								
合計	32(17)			118(13)	55(13)	5(2)	12(2)	222(47)

( ) 内は女子で内数

■ 進路状況 (学部)



■ 進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成 28 年 2 月 1 日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位：人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種 (きぼう 21 プラン)	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	983	281	286	( 45)	12	534	54.3
	医学部	930	197	233	( 72)	74	432	46.5
	工学部	1,636	475	514	(102)	16	903	55.2
	農学部	1,168	299	315	( 62)	17	569	48.7
	計	4,717	1,252	1,348	(281)	119	2,438	51.7
大学院	教育学研究科	68	16	3	0	2	21	30.9
	医科学看護学研究科	12	0	0	0	0	0	0.0
	看護学研究科	20	1	0	0	0	1	5.0
	工学研究科	282	147	18	( 6)	5	164	58.2
	農学研究科	132	63	8	( 6)	1	66	50.0
	医学系研究科(博士)	21	0	0	0	0	0	0.0
	医学獣医学総合研究科(修士)	31	6	1	0	0	7	22.6
	医学獣医学総合研究科(博士)	140	7	1	0	1	9	6.4
	農学工学総合研究科	81	15	2	( 1)	3	19	23.5
計	787	255	33	( 13)	12	287	36.5	
合計	5,504	1,507	1,381	(294)	131	2,725	49.5	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

# 国際交流

## 1. 外国人留学生数

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			科目等履修生			合計
	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	
アジア	中国		9		26		1	1								37
	インドネシア		1	9	15											25
	タイ		7	4	2									1		14
	韓国		3		1						5					9
	ミャンマー				3	6										9
	台湾					1					8					9
	マレーシア		4	1	3											8
	ベトナム				2	6										8
	モンゴル				1	5						1				7
	バングラデシュ				4	2										6
	ネパール			1	1											2
	インド				1	1										2
	フィリピン				1											1
	スリランカ					1										1
アフリカ	タンザニア				2			1								3
	セネガル				2											2
	南アフリカ				2											2
	ギニア			1												1
	ケニア				1											1
	ルワンダ				1											1
オセアニア	トンガ			1											1	
中東	アフガニスタン				21			2								23
	シリア				1											1
中南米	ブラジル							2	1						3	
北米	アメリカ										1				1	
ヨーロッパ	スロベニア										1				1	
計			4	22	31	96		5	3	16			1		178	

## 2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名	平成 27 年度派遣留学生	
交流協定校等への留学 ※短期プログラム含む	アジア	中国	南京農業大学	19
		中国	上海交通大学	2
		インドネシア	ブラウィジャヤ大学	7
		韓国	嶺南大学校	12
		韓国	釜慶大学校	7
		韓国	順天大学校	1
		ミャンマー	ヤンゴンコンピュータ大学	8
		ミャンマー	ヤタナボン工科大学	3
		スリランカ	ペラデニヤ大学、モラトゥワ大学	5
		台湾	大葉大学	2
		タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	21
		タイ	カセサート大学	10
		タイ	キングモンクット工科大学	2
		北米	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校
	アメリカ		インディアナ大学パデュー大学フォートウェイン校	2
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学		2	
ヨーロッパ	ベルギー	リエージュ大学	1	
	イタリア	カリアリ大学	4	
語学学校への留学	アジア	フィリピン	セブ ESL センター	10
		フィリピン	EG アカデミー	22
	オセアニア	ニュージーランド	オタゴ大学ランゲージセンター	3
その他	北米	カナダ	カナダ食品検査局	1
	オセアニア	ニュージーランド	カンタベリー大学	1
	ヨーロッパ	イギリス	ノッティンガム大学	1
	アフリカ	ケニア	国際家畜研究所	1
計			151	

### 3. 外国人研究者受入状況

(平成 27 年度)

受入部局 国・地域名	教育学部	医学部	工学部	農学部	教育・ 学生支援 センター	フロンティア 科学実験 総合 センター	国際連携 センター	産業動物 防疫 リサーチ センター	語学教育 センター	IR 推進 機構 TT 推進 機構	その他	合 計
インド		6				1						7
インドネシア			7				2	10				19
韓国		3	3	2	1		9	1	1			20
タイ		7		3			1	38				49
台湾							1					1
中国		7	4				10				1	22
バングラデシュ		1										1
フィリピン				1			1					2
ベトナム			1	1			1	1				4
マレーシア							2	1				3
ミャンマー		13	26	1			12	1				53
モンゴル		6	1									7
トルコ		1										1
エジプト		2		7								9
南アフリカ					1							1
オーストラリア			1							2		3
ニュージーランド									1			1
アメリカ	2	3	1	3			6	1	1	2		19
カナダ		1						1				2
イギリス		1		1				3				5
イタリア								2				2
ドイツ			1	2								3
ベルギー								1				1
ブルガリア		2										2
ポーランド				1								1
アイルランド		1										1
フィンランド				5								5
スイス						1						1
スリランカ							5					5
合 計 (29)	2	54	45	27	2	2	50	60	3	4	1	250

#### 4. 外国の大学等との交流一覧

##### ■大学間交流協定 (56 機関)

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学		昭和61. 7.15
韓国	嶺南大学校	昭和62. 2. 8	平成17.11.28
スロベニア	リュブリャナ大学	昭和62. 9.30	平成20. 4. 8
タイ	チュラロンコン大学	昭和63. 1.26	平成 8. 4.12
韓国	順天大学校	平成 1.11.21	平成 7. 8.22
中国	南京農業大学	平成 2.11.28	平成17.11. 2
タイ	カセサート大学	平成 4. 9. 4	平成20.10.14
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	平成 7.12.11	平成17. 3. 1(医学部) 平成25.12.17(農学部)
インドネシア	ハサヌディン大学	平成 7. 2. 6	平成19. 7. 2
中国	上海交通大学	平成11.12.21	平成18. 9. 1
タイ	キング・モンクット工科大学 トンブリ校	平成11. 7.21	平成23. 1.19
中国	温州医科大学	平成12. 3. 8	
インドネシア	ブラウイジャヤ大学	平成16. 4. 5	平成17. 9.26
台湾	東呉大学	平成25.11.14	平成16. 9. 6
ベトナム	ベトナム国立農業大学	平成17. 5.30	平成17. 5.30
中国	青海大学	平成17. 8.29	平成17. 8.29
インド	インド工科大学カンプール校	平成21. 7.13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・ マハラジ医科大学	平成21. 7.29	
韓国	全北大学校	平成21.12.15	平成21.12.15
ブラジル	サンパウロ大学農学部ルイス・ デ・ケイロス校	平成22. 4.19	平成22. 4.19
イタリア	カリアリ大学	平成22. 9.27	平成23. 5.31
中国	西北農林科技大学	平成22.11.10	平成22.11.10
モンゴル	モンゴル国立大学	平成23. 6.28	平成23. 6.28
ベトナム	ベトナム教育訓練省国際教育 開発局	平成23. 9.27	
インドネシア	ガジマダ大学	平成23.10.14	平成23.10.14
アメリカ	カンザス州立大学	平成24. 8. 2	
韓国	慶北大学校	平成25. 1. 7	平成25. 1. 7
中国	長沙理工大学	平成25. 1.10	平成25. 1.10
ミャンマー	ミャンマー保健省	平成25. 1.22	
台湾	開南大学	平成25. 3.15	平成25. 3.15

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
アメリカ	インディアナ大学・パデュー 大学フォートウェイン校		平成25. 3.22
マレーシア	マレーシア・ボトラ大学	平成25. 7. 1	平成25. 7. 1
中国	昆明医科大学	平成25.12. 9	平成25.12. 9
タイ	トンブリ・ラジャハット大学	平成26. 2. 6	平成26. 2. 6
ミャンマー	ミャンマー獣医科大学	平成26. 1.10	
ミャンマー	ミャンマー牧畜水産地域 開発省畜産繁殖獣医局	平成26. 1.10	
ミャンマー	ミャンマー科学技術省高等 科学技術局	平成26. 4.29	
モンゴル	モンゴル国立医科学大学	平成26. 6.19	平成26. 6.19
ウルグアイ	ウルグアイ共和国大学	平成26. 6.30	
ベトナム	ベトナム農業・地域開発省 水資源教育局水環境研究所	平成26.10.23	
アメリカ	トレド大学薬学部	平成26.10.30	
エジプト	ベンハ大学	平成26.12.25	平成26.12.25
トルコ	エルジエス大学	平成27. 2. 5	平成27. 2. 5
ミャンマー	ミャンマー牧畜水産地域 開発省水産局	平成27. 3. 1	
台湾	大葉大学	平成27. 3.28	平成27. 3.28
台湾	屏東科技大学	平成27. 3.29	平成27.3 .29
アメリカ	ペンシルベニア州立 インディアナ大学		平成27. 4. 9
スリランカ	ペラデニア大学	平成27. 4.16	平成27. 4.16
ミャンマー	パテイン大学	平成27. 5.19	平成27. 5.19
インドネシア	アイルランガ大学	平成27.12.15	平成27.12.15
ベルギー	リエージュ大学	平成28. 2. 2	平成28. 2. 2
ベトナム	ノンラム大学	平成28. 2. 2	平成28. 2. 2
韓国	培材大学	平成28. 2.25	平成28. 2.25
韓国	釜山外国語大学校	平成28. 3.10	平成28. 3.10
台湾	国立政治大学	平成28. 3.26	平成28. 3.26
マレーシア	インフラストラクチャー大学 クアラルンプール	平成28. 3.29	平成28. 3.29

##### ■部局間交流協定 (24 機関)

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
台湾	国立成功大学医学院	平成13. 3.16		医 学 部
中国	延辺大学医学院	平成15. 2.12		//
アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校医学部		平成17. 7. 1	//
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	平成 5. 2. 1		工 学 部
オーストラリア	メルボルン大学理学部・工学部	平成25.10.16		//
インドネシア	リアウ大学工学部	平成26. 9.11	平成26. 9.11	//
中国	重慶理工大学工学系学院	平成27.12.24	平成27.12.24	//
フィリピン	セントラル・ルソン国立大学	昭和63. 1.12	平成19.10. 1	農 学 部
英国	スターリング大学養殖研究所	平成 2. 8.23		//
インドネシア	ボゴール農科大学	平成 4. 8.31	平成 9. 9. 9	//
中国	中国農業大学	平成 6.10.22	平成19. 6.25	//
フィリピン	フィリピン大学	平成 8. 3.25	平成18. 3. 3	//
アルゼンチン	ブエノスアイレス大学農学部	平成13. 1.11	平成18. 3. 3	//
モンゴル	モンゴル生命科学大学	平成15.10.17	平成20. 9.12	//
韓国	釜慶大学校水産科学部	平成24. 6. 7	平成24. 6. 7	//
イタリア	テラモ大学獣医学部	平成25.10. 2		//
イタリア	ミラノ大学健康、アニマルサイエンス、食品安全科学科	平成26. 4.29	平成26. 4.29	農学部・CADIC
イタリア	カラブリア州・健康保護福祉政策部、農林・造林部、カラブリア大学薬学・健康栄養科学科	平成26.11.18		//
タイ	動物衛生研究所	平成26. 3. 3		C A D I C
カナダ	カナダ食品検査局・国立動物疾病センター・レスブリッジ研究所	平成26.11.14		//
英国	パーブライト研究所	平成26.11.21		//
ブラジル	サンパウロ州・サンパウロアグリビジネス科学技術庁・生物研究所	平成27. 9.28		//
韓国	ソウル大学校	平成28. 3.17		//
ネパール	トリブバン大学中央図書館	平成20. 3. 3		附 属 図 書 館



# 連携協定機関

	協定先	協定月日	目的
1	株式会社宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会 (JA宮崎経済連)	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	株式会社日本政策金融公庫 宮崎支店 延岡支店	平成21年 7月 1日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
7	学校法人高梁学園九州保健福祉大学	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
8	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
9	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
11	学校法人宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
12	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
14	社団法人宮崎県商工会議所連合会 宮崎県農業協同組合中央会 宮崎県経済農業協同組合連合会 宮崎県漁業協同組合連合会 宮崎県森林組合連合会 宮崎県商工会連合会 宮崎県 ※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加	平成23年 3月31日	農工商連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
15	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日南市	平成24年 4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	日向市	平成24年 7月 6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
18	串間市	平成25年 5月10日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
		平成27年 8月17日	津波が発生し、又は発生する恐れがある場合において、地域住民等が緊急に避難しなければならないときに、宮崎大学が所有する施設を地域住民等の一時避難場所として使用することを目的とする。
19	一般財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技会 組織委員会	平成26年 6月23日	それぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的とする。
20	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	平成26年 7月 9日	開発途上国地域への国際協力事業の質の向上、国際貢献及び大学の教育・研究並びに国内の国際化の推進に寄与することを目的とする。
21	全国「道の駅」連絡会	平成27年 2月13日	「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的とする。
22	学校法人 宮崎学園宮崎国際大学 学校法人 宮崎学園短期大学	平成27年 8月11日	教育・研究機能の向上を図るとともに、地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
23	綾町	平成27年 9月15日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
24	宮崎県立宮崎大宮高等学校	平成28年 1月12日	グローバルリーダー育成に資する教育を通して、生徒（学生）の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来有為なグローバルリーダーの育成を図ることを目的とする。

※大学間レベルの協定のみ記載。

# 平成27年度公開講座実施状況

## ●本学による公開講座

	講座等の名称	参加人数	実施回数	開始年月日	終了年月日	総時間数
1	源氏物語 ～藤袴巻を読む	30	15	2015/05/09	2016/02/20	22.5
2	朗読で味わいを深める日本文学 ～ことばの力・声の力	53	6	2015/05/09	2016/01/09	18.0
3	「話す」「書く」に出会い直す ～苦手の日本語を解きほぐすレッスン	6	3	2015/07/11	2015/07/25	9.0
4	古典を訳してきた歴史	8	4	2015/11/14	2016/03/05	12.0
5	医学部公開講座 ～医学研究と臨床への応用	28	5	2015/07/27	2015/07/31	10.0
6	看護学科公開講座 ～ナースのためのブラッシュアップ講座	70	7	2015/07/04	2015/12/19	14.5
7	看護部公開講座 ～看護師が行う呼吸理学療法・褥瘡予防のスキンケア	27	1	2015/10/31	2015/10/31	6.0
8	みて、触って、学ぼう！ ～人工呼吸器装着患者のケア 初級編	21	1	2015/12/05	2015/12/05	3.5
9	耳の日 ～耳をたいせつに	65	1	2016/03/05	2016/03/05	3.0
10	HTLV-1感染症からATLへ ～宮崎におけるHTLV-1感染症への対策について	153	2	2015/11/14	2015/12/19	6.0
11	災害時の医療を理解しよう ～DMATとは？トリアージとは？ドクヘリとは？ドクターカーとは？	36	1	2015/07/18	2015/07/18	4.0
12	「共感的コミュニケーション」入門講座 ～人と人の関係にいのちを吹き込む方法	15	1	2015/05/16	2015/05/16	3.5
13	がん患者のためのメンタルサポート ～サイモントン博士に学ぶこころのセルフコントロール～	14	1	2015/06/20	2015/06/20	5.0
14	初心者のための太陽電池入門	40	1	2015/08/07	2015/08/07	3.0
15	中級者のための太陽電池入門	33	1	2015/08/10	2015/08/10	3.0
16	親子で学ぶ太陽電池	16	1	2015/08/11	2015/08/11	4.0
17	海を拓く！ ～様々な可能性を求めて身近な海を改めて見直す	101	5	2015/08/29	2015/09/26	7.5
18	住吉フィールド(牧場)公開実習 ～牛とのふれあい牧場体験	20	2	2015/07/29	2015/08/19	6.0
19	住吉フィールド(牧場)公開実習～トラクターに乗って、牧場体験してみよう	20	2	2015/07/29	2015/08/19	6.0
20	林業体験基礎講座～「林業の仕事体験してみらんねえ！」	5	4	2015/06/07	2016/03/08	20.0
21	さつまいも収穫体験学習	697	24	2015/10/01	2015/11/06	48.0
22	今でしょ！日向夏の黄と緑を楽しむ ～日向夏の性質と剪定方法	11	1	2015/04/18	2015/04/18	3.0
23	稲を育ててみよう ～田植えから収穫まで	30	4	2015/06/21	2015/11/08	8.0
24	家庭菜園講座 ～クリスマスに向けクリームシチューの材料を栽培・調達せよ 編	20	6	2015/08/22	2015/12/19	12.0
25	動物達とより良く暮らすために知っておきたいこと ～ヒトと動物の共生を目指している科学者からのメッセージ～	47	1	2015/09/27	2015/09/27	3.0
26	「どうせ無理」から「よし、やってみよう」へ 生きる力と自己肯定感にあふれたマインドを育む	44	1	2016/01/10	2016/01/10	7.0
27	「がん」を知って「生きる」を学ぶ ～がんに負けない社会づくりを目指そう～	44	1	2016/02/07	2016/02/28	7.0
28	親子で参加体験教室 ～大地の恵みで料理を作ろう！	23	1	2015/11/22	2015/11/22	5.0
29	牛の直腸検査をやってみよう ～エコーを使えば胎児も見れるかも	6	1	2016/01/30	2016/01/30	3.0
30	親子で参加林業体験教室 ～林業の仕事知っていますか～？	15	1	2016/02/28	2016/02/28	5.0
31	大きな機械を操作しよう。大きな肥育牛にもエサをやろう。	7	1	2016/03/12	2016/03/12	3.0
32	音楽で異文化コミュニケーション ～歌う英語	13	2	2015/10/31	2015/11/01	6.0

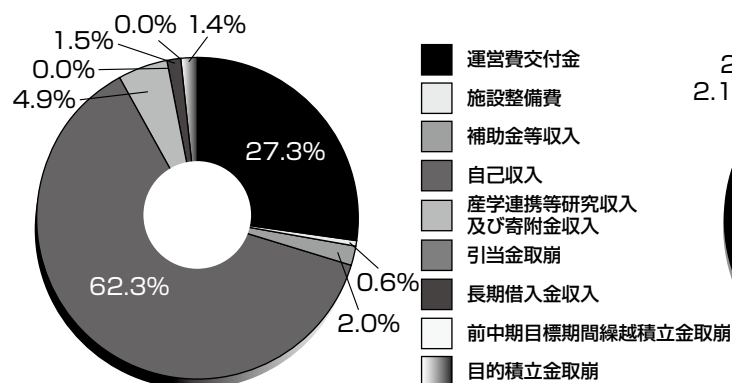
# 平成 27 年度経理状況

## ●決算額

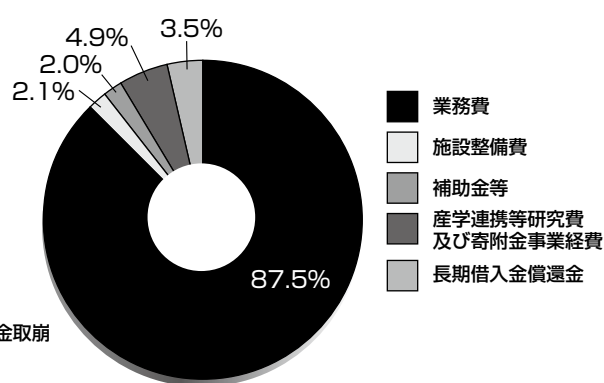
単位：円

収 入		支 出	
運営費交付金	10,062,807,092	業務費	教育研究経費 11,510,551,473
施設整備費	57,000,000		診療経費 20,436,962,127
施設整備費補助金	168,590,606	施設整備費	775,049,606
厚生労働省交付金	0		
補助金等収入	725,173,588	補助金等	724,516,003
自己収入		産学連携等研究費	産学連携等研究費 1,213,181,522
授業料、入学金及び検定料収入	3,091,523,620	及び寄附金事業経費	寄附金事業経費 582,308,255
附属病院収入	18,483,416,547		
財産処分収入	0	長期借入金償還金	1,253,995,481
雑収入(指定管理料収入含む)	1,345,372,174		
産学連携等研究収入及び寄附金収入			
産学連携等研究収入	1,217,409,609		
寄附金収入	582,308,255		
引当金取崩	11,815,356		
長期借入金収入	549,459,000		
前中期目標期間繰越積立金取崩	0		
目的積立金取崩	514,575,091		
合 計	36,809,450,938	合 計	36,496,564,467

### ■ 収入



### ■ 支出

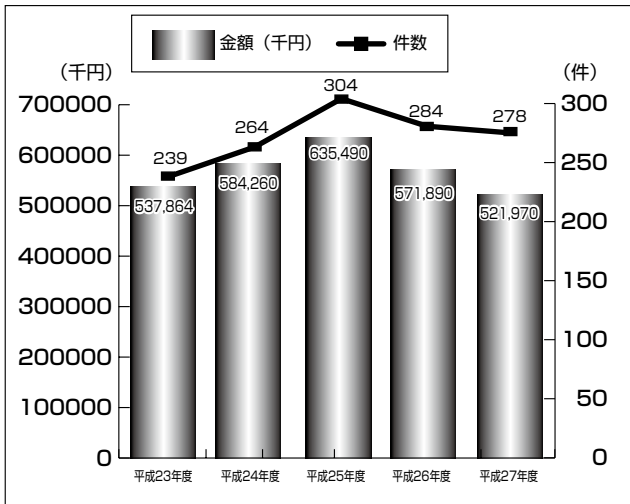


## ●科学研究費助成事業採択状況

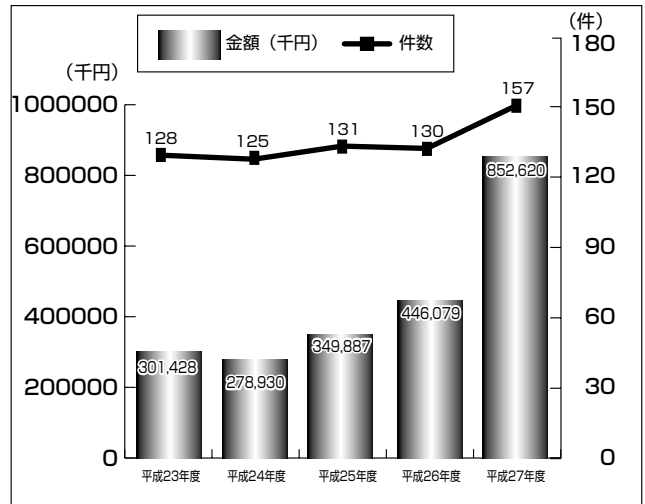
(平成 27 年度)

研究種目	採択件数	金額(千円)
新学術領域研究	4	38,220
基盤研究(A)	1	7,670
基盤研究(B)	25	115,440
基盤研究(C)	126	186,680
挑戦的萌芽研究	43	57,590
若手研究(A)	3	19,370
若手研究(B)	55	72,410
研究活動スタート支援	5	7,280
奨励研究	5	2,500
研究成果公開促進費	1	2,300
特別研究員奨励費	10	12,510
計	278	521,970

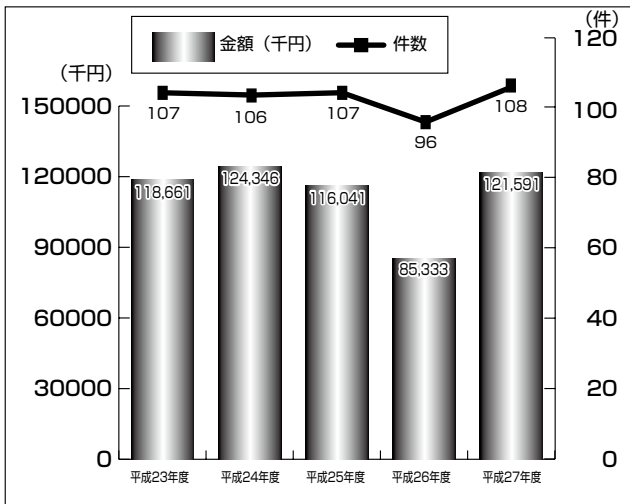
●科学研究費助成事業受入状況



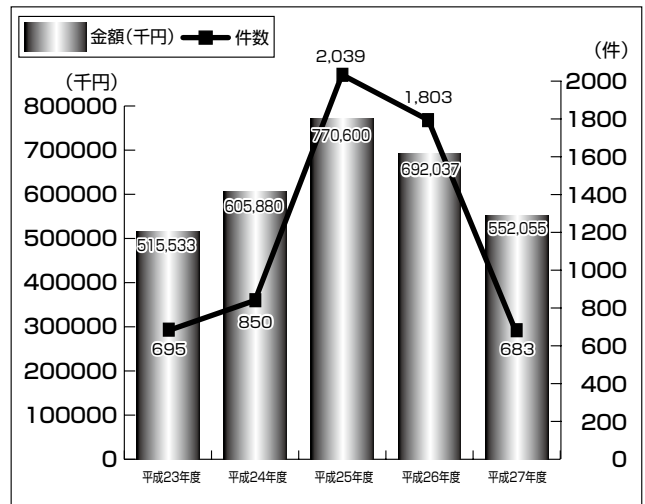
●受託研究受入状況



●共同研究受入状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(平成27年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術人材育成費補助金「テニユアトラック普及・定着事業」	1	63,500
研究開発施設共用等促進費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト (中間的拠点整備プログラム))	1	29,393
戦略的国際研究交流推進事業費補助金 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	1	26,030
産学連携サービス経営人材育成事業	1	8,623
環境研究総合推進費補助金	1	25,566
地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)	1	37,000
大学教育再生戦略推進費「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」	1	60,120
国公立大学を通じた大学教育改革の支援(GP)	1	15,467

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学内定額を記載(間接経費を含む)

# 学生関係施設

## ●大学会館

建物名称	階別	室名	用途等
	地下1	大学会館書庫	
大学会館	1	食堂・ホール・ インフォメーションコーナー	食堂（830席）・ホール
		ベーカリーカフェ	喫茶・軽食（72席）
		学生ボランティア活動支援室	
	2	国際連携課	
3	教育・学生支援センター		
		研究推進課	

## ●創立330記念交流会館

建物名称	室名	用途等
創立330記念交流会館	コンベンションホール	300人収容
	コンベンションルーム	50人収容
	売店	書籍、文具、その他
	学生支援部長室	
	教育支援課	
	学生生活支援課	
	キャリア支援課	
	学生なんでも相談室	学生の悩み等の相談
	キャリアアドバイザー室	就職に向けた資格、進路相談

## ●学生寄宿舍及び国際交流宿舎

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋5階建	100
女子寄宿舍		鉄筋5階建	100
国際交流宿舎		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舎Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舍		鉄筋2階建	5
国際交流宿舎Ⅲ（木花ドミトリー）		鉄筋4階建	31
合計			411

※国際交流宿舎Ⅱの単位は室

## ●体育施設・課外活動施設

### ◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムニ）	テニス・ソフトテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室
	文化系（音系）サークル共用室
	サークル棟
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

### ◇清武キャンパス

施設名	種目
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソフトテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考
		建面積	延面積	
<b>【木花地区】</b>	<b>839,592</b>	<b>43,823</b>	<b>117,093</b>	※安全衛生保健センターを含む
事務局		3,005	5,278	※創立330記念交流会館を含む
中央機械棟		430	430	
門衛所		64	64	
大学会館		1,525	3,458	
体育館・器具庫		3,197	3,624	
教育学部・地域資源創成学部		6,649	22,655	※附属教育協働開発センターを含む
工学部		7,041	22,328	
農学部		10,199	31,520	
農学部		5,802	25,147	
農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)		2,258	2,615	
附属動物病院		1,181	1,867	
産業動物教育研究センター	778,523	541	1,125	
附属農業博物館		417	766	
附属図書館		1,829	4,977	
産学・地域連携センター等		1,563	3,127	
国際連携センター		546	898	
フロンティア科学実験総合センター等		693	1,877	
情報基盤センター		662	1,254	
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む
寄宿舎		931	3,691	
国際交流宿舎		978	5,211	
課外活動施設		1,580	2,306	
実験排水処理施設		226	173	
農学部水田	61,069	250	250	
<b>【清武地区】</b>				
医学部	<b>224,316</b>	<b>38,745</b>	<b>123,301</b>	
医学部事務局・フロンティア科学実験総合センター等		12,004	36,042	
医学部附属病院		23,988	76,770	
附属図書館医学分館		854	1,908	
総合教育研究棟		1,899	8,581	
<b>【花殿・船塚地区】</b>	<b>61,777</b>	<b>8,719</b>	<b>15,626</b>	
教育学部附属幼稚園		1,058	913	
木犀会館	21,797	132	132	
教育学部附属小学校		3,613	7,162	
教育学部附属中学校	39,980	3,916	7,419	
<b>【その他】</b>				
農学部附属フィールド科学教育研究センター	<b>6,694,031</b>	<b>7,595</b>	<b>8,719</b>	
住吉フィールド(牧場)	502,040	6,203	6,617	
田野フィールド(演習林)	6,185,887	759	1,033	
延岡フィールド(水産実験所)	6,104	633	1,069	
職員宿舎	<b>29,553</b>	<b>3,946</b>	<b>16,392</b>	
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330	
木原職員宿舎	10,494	1,261	4,178	
西新町職員宿舎	8,353	1,221	4,884	
保育施設(くすの木保育園)	<b>973</b>	<b>252</b>	<b>225</b>	(木原職員宿舎敷地内)
計	7,850,242	103,080	281,356	

# 施設所在地

## ●木花キャンパス

0985-58-7111(番号案内)

名称	所在地	電話番号
事務局		0985(58)2854
教育学部		0985(58)2889
附属教育協働開発センター		0985(58)5287
工学部		0985(58)2871
農学部		0985(58)2875
附属フィールド科学教育研究センター		
木花フィールド(農場)		0985(58)7154
附属動物病院		0985(58)7286
附属農業博物館		0985(58)2898
地域資源創成学部		0985(58)7848
附属図書館本館		0985(58)7147
産学・地域連携センター	〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985(58)4017
機器分析支援部門		0985(58)2868
教育・学生支援センター		0985(58)7427
フロンティア科学実験総合センター		
遺伝資源分野		0985(58)7580
RI分野 RI木花分室		0985(58)2877
国際連携センター		0985(58)7104
産業動物防疫リサーチセンター		0985(58)7674
安全衛生保健センター		0985(58)3423
情報基盤センター		0985(58)2867
清花Athenaサポート室(木花)		0985(58)7508
男子寄宿舎		0985(58)5005
女子寄宿舎		0985(58)4701
国際交流宿舎		0985(58)5000

## ●清武キャンパス

0985-85-1510(代表)

名称	所在地	電話番号
医学部		0985(85)1510
附属病院		0985(85)1510
附属図書館医学分館		0985(85)9198
フロンティア科学実験総合センター		
生理活性物質機能解析分野	〒 889-1692 宮崎市清武町木原 5200 番地	0985(85)9427
生理活性物質探索病態解析分野		0985(85)9718
微生物ゲノム科学分野		0985(85)0871
生物資源分野		0985(85)2971
分子形態・機能解析分野		0985(85)1784
RI分野 RI清武分室		0985(85)1514
安全衛生保健センター分室		0985(85)2392
清花Athenaサポート室(清武)		0985(85)1252

## ●教育学部

名称	所在地	電話番号
附属幼稚園	〒 880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地	0985(24)6707
附属小学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番49号	0985(24)6706
附属中学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町7番67号	0985(25)1122

## ●農学部

名称	所在地	電話番号
附属フィールド科学教育研究センター		
住吉フィールド(牧場)	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1	0985(39)1034
田野フィールド(演習林)(田野地区)	〒 889-1702 宮崎市田野町乙 11300	0985(86)0036
(大納地区)	〒 888-0221 串間市大字大納字平原 1885	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方
(崎田地区)	〒 888-0009 串間市大字崎田字名切 4270	
延岡フィールド(水産実験所)	〒 889-0517 延岡市赤水町 376-6	0982(37)0327

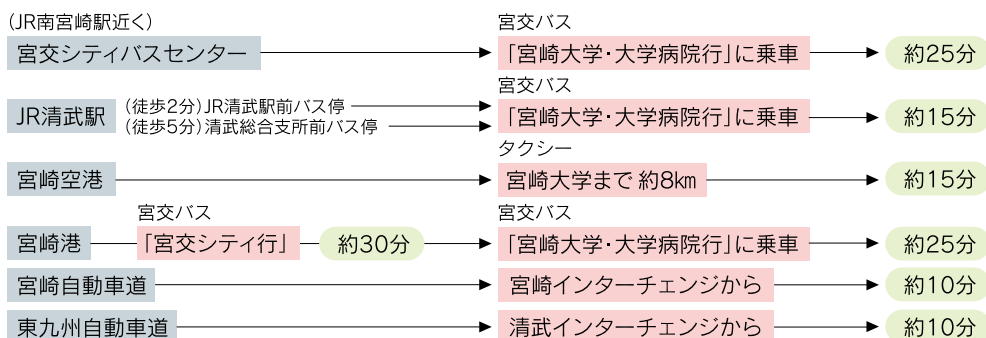
## ●その他

名称	所在地	電話番号
サテライト・オフィス	〒 880-0001 宮崎市橋通西 3-3-24 MCCビル1階	0985(55)0553
医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニック	〒 880-8586 宮崎市橋通西 3-10-32 ポンベル夕橋東館 8階	0985(65)6480
くすの木保育園	〒 889-1601 宮崎市清武町木原 5600 番地	0985(84)2211

## 問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	広報・渉外課	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 経理調達係	seicho@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 経理調達係	soukatu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2858
入試について	入試課 入試係	nyushi@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	キャリア支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教務係	gakumukyomu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	jinjika@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課	ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学連携について	産学・地域連携課	sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課	gaibusikin@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座・地域連携について	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教員免許状更新講習について	教育支援課 教員免許状更新講習事務係	kyomen@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7975
教育学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	edusoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院看護学研究科の総合案内	医学部 学生支援課 教務係	kyoumu@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-9243
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2875
地域資源創成学部の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	atrium@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7848
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当	noukou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係	graduate@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-9126

## 宮崎大学までの交通機関



※交通アクセスについては25ページにも掲載しています。

## 平成28年度(2016年度) 国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地  
URL <http://www.miyazaki-u.ac.jp/>

【編集発行】

国立大学法人宮崎大学広報企画室  
TEL (0985) 58-7114 FAX (0985) 58-2818

平成28年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター  
「みやだいもうくん」